共に育ち 共に育った 鳩の森愛の詩

30周年記念コンサート

未来へ

ご挨拶

30周年記念コンサート実行委員長

川原 孝則

私が鳩の森のコンサートを初めて経験したのは、10年前に鎌倉芸術館で開催された20周年記念コンサートでした。当時、入園して4年目でしたが、コンサートのことはよく知らなかったため、「保育園のコンサートってなに？」「そんなに大きなホールでコンサートなんて出来るの？」と疑問に思ったものでした。実際にコンサートを経験して、その完成度の高い内容に驚き、躍動感あふれるステージに感動し、そのコンサートの企画や運営にたくさんの父母や職員が関わっていることを知って、鳩の森の父母や職員のパワーはすごいなと感じたことを覚えています。

その後も節目の年に記念コンサートが開催され、親子共々楽しみにしてきましたが、今回の30周年記念コンサートでは、実行委員として企画・運営に初めて関わることになりました。しかも実行委員長という大役を引き受けることになり、正直不安を感じていましたが、地域の皆様に支えていただき、実行委員をはじめとする関係者の皆様のご協力のおかげで、この日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

鳩の森のコンサートは、子どもたち・職員・父母・OBが主役のコンサートです。本日お越しいただきました皆様に素晴らしいステージを披露できるよう、出演者全員が練習に練習を重ねて参りました。子どもたちの一生懸命さや大人たちの熱い思いがたくさん込められた"鳩の森愛の詩30周年記念コンサート"を楽しんでいただけたらと思います。

鳩の森が開園して30年という年月が過ぎました。その間、子供たちが幸せに育ち、子供たちを中心に保護者も保育者も育っていくという「共育て共育ち」を保育の原点として大切に守ってきました。

今回のコンサートを通じて、その30年の歴史の積み重ねや「共育て共育ち」の理念を大切にして、未来へ羽ばたき続ける「はと」の姿を感じていただきたいと思います。そして、これからの鳩の森を引き続き応援いただけましたら幸いです。

白梅学園大学学長
社会福祉法人はとの会 理事長

汐見 稔幸

祝

30周年、何はともあれ、おめでとうございます。

30年、いろいろあったと思いますが、ずっとみんなで歌を歌い続けてきたこと、このことは、鳩が最も誇るべき事実だと思います。

僕も歌が好きです。

お袋が、戦前、小学校の音楽教育で有名になり、その勢いで、戦後、僕ら子どもを産んだ後も、教師は辞めたけど、僕らに歌うことは要求しました。妹、弟と、ぼろぼろの安オルガンのお袋の伴奏で、3人で歌いました。

そのせいか、中学校以降、僕のポケットにはいつも歌集が入っていました。好きな歌を僕はほとんどこの歌集で覚えました。

大人になっても、道を歩いていると、勝手に口から、曲が生まれ出てきました。テープを取っておいたらよかったと、反省したこともあります。

たいした曲じゃなかったと思いますが。

でも、僕の人生には、歌がないときはなかった感じなのです。

きっと、人はいのちや心が疲れたとき、もちろんうれしいとき、ときに悲しいとき、そのいのちや心がリズムやメロディを要求するんでしょうね。

そうすることで、生きる姿勢を正そうとする。

万葉の時代から、人は歌ってきました。

こもよ　みこもち、ふくしもよ　みぶくしもち、このおかに
なつますこ、　いえきかな　なのらさね・・・

きっと、リズム、メロディを豊かに伴って、歌われたのでしょうね。

高校生の頃、ぼくが万葉集を全部覚えてやろうなど意気込んだのも、人々が歌ってきた、その喜びや悲しみの心の営みに、少しでも近づきたかったからだと思います。

鳩が、歌うことにこだわってきたこと、あるいは演奏することを求めてきたこと、は、そう思うと、人々のこだわってきた最も大事な行為ーそれが文化なんだと思いますがーの形を、幼少期から、子どもたちに刻み込もうとしてきたということなんだと思います。

考えてみれば、すごいことですよね。

子どもにとって本当に大事なこと、いえ、人間にとって本当に大事なことがよくわからなくなってきている現代という時代に、歌うことで、ただ歌うことで、それが何かを伝えようとしてきた。

やはり、鳩はいいですね。

好きです。

さらに5年後、10年後・・・記念コンサートが開けることを、祈っています。

大人OB会初代会長

江原 徳至

歌うことの大好きな保育士さんたちが、子どもたちをもっと自由に遊ばせたい、歌わせたい、自分たちの保育がしたいとせぬママ宅で無認可保育園を始めたのが鳩の森の始まりです。

わが家の二人の子供たちも、お散歩に行ったり泥んこになったりと毎日毎日が楽しくてすっかり保育園っ子に。”安心して子供を預けられる”、働く親にとってこんな有り難いことはありませんでした。

当時、ご近所の方からこんな話を聞いたことがあります。「毎朝、子どもたちの歌を聞いていたら知らないうちに覚えてしまい、洗たくものを干しながら口ずさんでいる」と。

そんな歌好きな保育士さんたちの想いは、卒園児一人ひとりの歌作りへと発展し今に至っています。保育園に泊まり込んで作っている時もありましたよね。私たち親も保育士さんたちの溢れんばかりの熱意に圧倒され、応援しなくてはという思いが日増しに強くなっていったものです。

そして、なんと10周年事業では、『子どもたちの成長をうたにのせて』というCDの制作を行ったのです。それまでに作られたたくさんの歌の中から選曲し、子ども、保護者、保育士、そして戸塚混声合唱団の方々の応援を頂き泉公会堂でレコーディングを行いました。全部で23曲、もちろん父ちゃん賛歌も入っています。でも、みんな素人ですから、なかなかOKが出ません。繰り返し歌い続けやっとOKが出た時はみんな大喜び！！　その後の打ち上げが盛り上がったのは言うまでもありません。

歌う楽しさ、歌でつながっていく一体感、信頼感。子どもを通して今まで知らなかった世界が広がり、親としても育てられたように思います。ああ、共育て共育ちとは、こういうことなんだなあと実感した次第です。

コンサートも節目節目で行いました。青少年ホール、県立音楽堂、鎌倉芸術館と回を重ねてきましたが、だんだんと手狭間になり“次は県民ホールだね”なんていう話になりました。いち保育園が県民ホールなんて、まったくの冗談、夢物語だとその時は思ったのですが、今回それが実現するのですから感慨無量。せぬママをはじめ実行委員の方々の持つパワーのすごさを感じ、頭の下がる思いです。

開園から30年、ここまで来るのに幾つもの困難があったはずです。でも歌があったからこそ乗り越えられたのだと思います。これからも、今まで大事にしてきた歌という鳩の森の文化を、未来を担う子どもたちへ伝えていって欲しいと強く願っています。

300人で歌う『ぞう列車』が楽しみです。

元認可をすすめる会代表
社会福祉法人はとの会 監事

西木 浩一

今、ここに鳩の森があるということ

今、ここに鳩の森があるということ。生まれてきた奇跡。

30年前、公立保育所の保育者だったせぬママらを中心に、もっともっと子どもたちの輝く保育をしたいという思いを共有した保育者たちが集まって鳩の森は生まれました。安定した身分をなげうって、夢と志だけでスタートしたのでした。

当時、「日本型福祉国家」が誇らしげに語られ、父親が家族賃金を稼ぎ母親が育児するというモデル家族を前提に、保育所の設置は抑制されていました。だから鳩の森も無認可保育所として厳しい環境の中で格闘していくことになったのです。

当時、横浜市には切実な保育ニーズに応えて同じように夢と志だけを頼りに立ちあがった無認可保育所が生まれていました。とくに産休明け保育、障害児保育については公立保育所がカバーしきれない部分をこれらの無認可保育所が支えてきたのです。

時には給与の遅配も生じるという過酷な経営環境の中で、それでも子どもの発達と親の就労を保障しようとする命がけの保育が実践され、その姿に心から共感する父母たちの力が結集していきました。♪バザーだ、コンサートだ、認可検討委員会だあー、と「父ちゃん賛歌」に歌われる父母たちのがんばり、子どもを中心に据えた保育者と父母の絆、共育て共育ちの文化は、この成立期の無我夢中の苦闘の中から生まれていったのです。

今、ここに鳩の森があるということ。つながってきた奇跡。

横浜市も一定の基準を満たした無認可保育所に対する補助金制度を整備し、当初は地域保育室として、その後制度を幾分手厚くして横浜保育室制度が施行されていきました。しかし皮肉にもこの制度充実が鳩の森の存続を危うくすることになります。というのも、当初から認可園並みの設備や職員配置に努めて保育の質を担保してきた鳩の森は、父母の負担する保育料がどうしても高くならざるをえませんでした。ところが横浜保育室制度では補助金額がアップした代りに、父母から徴収する保育料の上限も設定されたのです。もちろん父母の立場にとってはありがたいことでしたが、鳩の森の保育の質を保ちつつ存続させていくには十分な助成ではあり

ませんでした。

そこで、あらためて社会福祉法人となり認可保育所として再スタートするための取り組みが開始されました。幸い、保育施策の基調は「子育て支援」「多様な保育ニーズへの対応」へと変わりつつあり、認可保育所増設の流れが生じていました。

しかし、父母の中には無認可保育所だからこそ出来た個性的な保育が守れるのかという声も根強く存在していました。また、当時鳩の森愛の詩保育園の園庭は借入金のため抵当権が設定されており、法人格を取得するにはこの借入金を返済して法人の財産とする必要がありました。このため、父母の会役員のOBらを中心に「認可をすすめる会を結成し、寄附・出資金を募ることになりました。そこでの活動の基本は、それまで鳩の森が培ってきた共育て・共育ちの保育の意義を語り合い、語り継ぐことに尽きました。幸いにしてOBの方や、すでにおひさま組(年長クラス)にいて、認可園に移行することで保育料が軽減されるメリットのない方々からも大きな共感と協力を得ることができ、予定の金額を期日までに集め切ることができたのです。

こうした法人認可取得への取り組みは、設立以来の鳩の森の歴史とその中で創り上げられてきた独自の保育文化を父母全体で再確認する機会になったのだと思います。

ともあれ、鳩の森はこれで運営基盤を固め、広く地域に開かれた公的な器として成長することになりました。本当に存続をかけたぎりぎりの取り組みでしたが、その成果は、現在の４つの保育施設、２つのキッズクラブへとつながっていきました。

今、ここに鳩の森があるということ。どんな軌跡を残すのか。

すでに卒園した子どもたちが成長し、父母として鳩の森に戻り、また卒園した時の夢をかなえて保育者として働いています。本当に幸せなことだと思います。

けれどもそれだけ世代の異なる職員や父母が鳩の森の今、そして未来を展望して行く際には、さまざまな食い違いやずれも少なくないでしょう。だからこそ30周年という節目の年を、あらためて鳩の森の歴史を振り返る好機と捉えたいと思います。

ただし、昔をノスタルジックに振り替えることだけに留めてしまってはもったいないです。今ある課題を乗り越えるために、よりよい10年後をイメージするために、若い職員の皆さんにはそんな問いかけ、問題意識をもっての振り返りを期待したいと思います。

長く鳩の森を支えてきた職員の皆さんには、自分たちの経験を十分に伝えてほしいです。同時に自分たちの経験を相対化してみる勇気と知性も忘れずに。

一つだけ忘れてはならないこと。それは鳩の森が育んできた「共育て共育ち」という人間関係・社会関係が、今保育園という枠を超えて包括的な地域福祉の理念として重要になってきているということです。

今、ここに鳩の森があるという幸せをかみしめて、また新しい歴史を切り開いていきましょう。今日をそのスタートの日として。

鳩の森愛の詩保育園 園長
社会福祉法人はとの会 理事
瀬沼 静子

どなたにお会いしても「せぬまさんは、しあわせねえ」と言われます。福の神様が勿体ないほどの出会いを下さったので、両手からこぼれるほどのしあわせをいただいてきました。ほんとうに私はしあわせです。これまで保育園を支えてくださったたくさんのみなさん、子どもたち、お父さんお母さん、ほんとうに有難うございました。

30年、側で見守ってくださったみなさんは、いつもハラハラドキドキされたことでしょう。情熱の塊だけで前へ前へすすんでいく鳩の森でしたから。

無認可保育園としての苦労、悩みのひとつは、お給料がお給料日に用意できなかったことでした。無認可保育所全体の書類が整わないときは、補助金が遅れたのです。研修会場で鳩の森Tシャツを売ることだって、研修に出かける旅費をつくりたい一心でしたから、大きな声でよびかけることに恥ずかしいと感じたことがありませんでした。いっしょに行ったお父さんお母さんも、宿泊先のお部屋を廻ってTシャツを売り歩いてくださったのです。学びたい！子どもたちの前にしっかり立てる大人、保育者になりたい！そのために学びたい！ 無認可保育所に研修案内はきませんでしたから、私たちで探して学ぼう！ お父さんお母さんにお届けした「研修報告書」は、私たちのささやかな感謝の気持ちでした。

「卒園する子どもたちひとりひとりに贈るうた」は、さまざまな困難を伴うようになりました。職員の話し合いが不十分のまま父母の会に伝えてしまいましたので、昨年度はお互いに不信感がうずまくような苦しい月日を重ねました。３園それぞれの歩みは異なりますが、「はと」(鳩の森愛の詩保育園) は、今年度のはじめ、「困難なときほど、うたって乗り越えてきた私たち」が、「子どもたちの成長をうたにする」活動をつづけていくことを決めました。かつてないほどの話し合いの中で、気づいたことはすべてをばねに、２７年度は「おたより」の改革、「行事」の見直し、「園内研修計画」の再検討に入っています。

この間、お父さんお母さんたちがさまざまな場で、「父母としての育ち合い」をふりかえられているという報告は、私たち自身が、「子どもたちが保育園が大好きだと言えるような保育をしているか」を問う大きな岐路にいる時でした。「私たち、やってるじゃん」といっているような奢りの気持ちに覆われている時でした。「共育て共育ち」が冠だけで終わらないように、私たちの保育を見守ってくださっている感謝を忘れずに、一生けんめい歩いていきたいと思います。

汐見先生が理事長に就任されて4年目を迎えます。ひとつひとつすべてをお聞きしたい。

不足だらけの私たちに先生は驚かれたでしょう。でも、この間の学習で、子どもたちに手渡すものが確かになっています。「鳩の森愛の詩憲章」も、平和を愛する子どもたちを育てると誓った私たちの学習の中で生まれたものですが、不安が加速していくような現代です。声に出して唱えていきましょうね。

鳩の森愛の詩憲章

鳩の森愛の詩の職員は、
自ら考える保育をします
常に「子どもたちにとっての最善の利益」を考えます
職員同士互いに助け合い、学び合います
子どもたちの姿に学び、親たちの声に学びます
一人一人が保育の専門家です
自分を磨いていきます
自らを語ります
そして、
ありのままの自分を愛します
保護者の方々、地域のみなさん、
近く遠く応援して下さる方々と手を携えて、
子どもたちはもちろん、関わる多くの大人たちにとっても
長く心のよりどころとなる場・・・心の故郷となる
「鳩の森愛の詩保育園」
「鳩の森愛の詩あすなろ保育園」
「あすなろ保育園ちいさなおうち」
「鳩の森愛の詩瀬谷保育園」
「鳩の森愛の詩宮沢保育園」
「いずみ野小学校放課後キッズクラブ」
「新橋小学校放課後キッズクラブ」を
共に担っていきます

画・松本州平

ご挨拶

30周年記念コンサートに寄せて

30周年コンサートをむかえるにあたって、「共育て共育ち」（小学館）を読み直した。

本の帯も文章も刺激的だが、『横浜の小さな保育園、２０年の記録』の小さな文字が時の流れをいっぺんに遡らせてくれた。まず、せぬママの後書きを読み返してから、最初にもどってページをめくる。

そうか、本の出版から10年。20周年からのこの10年、この10年の成長発展もすごいものだ。瀬谷保育園が生まれ、宮沢保育園が生まれ、ちいさなおうちが生まれたのも、この10年のことなんだ。改めて30年の重みを感じる。

ところで、コンサートの司会は近江屋希ちゃんと中野たかちゃんに決まった。このプログラムで紹介してしまうのはネタバレでよろしくないのだが、たかちゃんは鳩の森の卒園生で、入園した時の担任が希ちゃんだったという。司会の下打ち合わせの時に、希ちゃんは「たかちゃんのうた」をスラスラと見事に歌うのだ。なるほど鳩の森の30年の保育内容の継承の具体的な姿がここにあった。胸が熱くなった。

25周年のプログラムに私は次のように書いた。「記念コンサートというのは、子どもの成長と重ね合わせて、保育園の歴史を確認しながら、子どもと保護者と保育者の成長をみんなで祝い確かめ合う『場』なのだ。」今回の30周年記念コンサートもそうなるに違いない。

演出

三浦恒夫

岩手県生まれ。祭や芸能の盛んな地域で幼少時代を過ごす。
日本各地の民俗芸能の再創造・舞台化に携わって現在に至る。
鳩の森愛の詩保育園とは10周年コンサートからのおつきあいで、かれこれ20年になる。
八年前、鳩の子どもたちと一緒に作った『泥だんご』は私の居間で、今でも黒く輝いています。

ふるさとの森に鳩が舞う
きょうは森のまつり
森をとび立っていった鳩たちも
羽音たくましく、ふるさとの森に還ってくる
きょうは、ふるさとの森まつり

汽笛がひびく
ラッセラーのかけごえがひびく
ホーオッ、ホーオッ
子馬たちが跳ねる
沖のおやじは汗まみれ
大漁旗を振って港にかえる

春、夏、秋、冬、自然のままに季節はめぐり
季節（とき）がきて種は芽を出し、花咲かせ、稔り
実は熟し、森の大地に還ってまた種となる
ふるさとのいのちは
天の地の全ての命と共振し
めぐりめぐるふるさとの命を謳う

鳩の森愛の詩保育園は
ほほ笑みあふれる保育園
詩のあふれる保育園
森の詩はふるさとの歌
ほほ笑みはハーモニーになり
語らいはコーラスとなる

大きくなるってすてきなこと
30周年ありがとう！
30周年ありがとう！
きょうはやっぱりまつりだ
ふるさとの森のまつりだ

コンサートプログラム

第1部 「飛び立て親鳩子鳩」

荒馬踊り — 保育園 3・4・5歳児　卒園児の一年生　職員

長良清流のぼり打ち — 和太鼓なかま ゆいっ鼓 OB・OG

走楽（らん） — 和太鼓なかま ゆいっ鼓

職員合唱 — 指揮 山本 ひで子　ピアノ 山下 恵
- 1.「ゆうき」 — 作詞 中川 李枝子　作曲 村松 崇継
- 2.「しあわせほいくえんの歌」 — 作詞 せぬましずこ　作曲 高平つぐゆき

おやじのロックソーラン
- 鳩おやじソーラン舞踏団　「ONE・破・闘」
- あすなろおやじソーラン舞踏団「アラリオン」
- 瀬谷おやじソーラン舞踏団　「セイヤーズ」

各団OB

第2部 「親と子と卒園児と職員でつくる 共育て共育ち愛の詩合唱団」

合唱構成 「ぞうれっしゃがやってきた」

原作 小出 隆司　作詞 清水 則雄　作曲 藤村 記一郎

指揮 田辺 四郎　ピアノ伴奏 山下 恵

（作品解説とあらすじと原作者のことば）
- 第 1 章　サーカスのうた
- 第 4 章　動物園へようこそ
- （語り）
- 第10章　ぞうれっしゃよはしれ
- 第11章　平和とぞうとこどもたち

※構成上、第1章・第4章・第10章・第11章の抜粋で行います。

荒馬踊り

〜空には白い雲　みどりの風が吹く
鳩の森では　太鼓どーんこ　どんどん
きょうはお祭りだよ　みんなで荒馬だ
（太鼓が響く）
どーんこ　どーんこ　どーんこどんどん
どんどんどん　どーんこどん　どん

荒馬踊りの太鼓が鳴り始めると、子どもたちの身体は踊りだして、もうとまらない。
手綱があればもうOK! 手綱を持つと表情もキリリと引き締まって全身が荒馬になる。
こうなったらもうとまらない。
二つ飛びからギャロップへ四つ飛びからポーズまで、もうそこは野原なのか牧場なのか青空に元気いっぱい掛け声が響く。

〜ラッセーラー　ラッセーラー
ラッセーラッセーラッセーラー

掛け声をかけたら、雷のような太鼓の音が響いて、列を整えて次の太鼓を待つ、、、、

荒馬踊りは、共育て共育ちの鳩の保育内容の重要な教材の一つでもあり、それよりなにより大人も子どもも大好きな大好きな踊りなのだ。
今日は客席の皆さんも掛け声をどうぞ、子どもたちといっしょにお楽しみください。

長良清流のぼり打ち

ゆいっ鼓を卒業した中学生・大学生のOB、OGが久しぶりに集まって、ワイワイガヤガヤ楽しみながら練習しました。
「長良清流のぼり打ち」は夏の長良川を表現したものです。雷鳴・雷雨から始まり豪雨は渓谷を下り支流を集めて激流となって下っていきます。滝あり、濁流ありとさまざまな身を体全体で表します。ちいさなときから、親しみ, 楽しんできた太鼓の撥さばきをどうぞご覧ください。

走楽（らん）

和太鼓なかま　ゆいっ鼓です。私たちは、鳩の森が開園当初より、保育の中で大切にしてきた和太鼓を、保育園を卒園してからも「もっとやりたい！」という子どもたちの声から誕生したグループです。今回は鳩の森愛の詩保育園の３０周年コンサートに相応しい和太鼓演奏、「走る」「楽しい」と書いて「走楽（らん）」を披露いたします。
この「走楽」は、「スィーサー・スィーサー」と掛け声をかけながら叩きますが、ゆいっ鼓では沖縄の魔除けになっている「シーサー」にかけて、平和を願う気持ちを込めて叩いています。そして、太鼓や様々な楽器を組み合わせた楽しい曲調になっています。ぜひ一緒に「シーサー、シーサー」と掛け声をかけてゆいっ鼓を応援してください。

職員合唱

ひと月一回のレッスンをつづけてきました。浜松からいらしてくださる望月珠津余先生の「鳩にうたがあるって、うーんと、しあわせなことなのよー！」のひとことに励まされて、自分自身のすべてをつかってうたう魔術のような教えをたのしんでうたってきました。
望月先生は「合唱団　美樹」周年コンサートが重なったため、山本ひで子先生が指揮してくださいます。
「ゆうき」は、昨年度NHK全国学校音楽コンクール小学校の部の課題曲。作詞者の中川李枝子先生から「元気にうたってほしくて書きました」のメッセージと楽譜を贈っていただきました。「しあわせ保育園のうた」は、1995年「鳩の森」のオリジナル曲として創作されました。

おやじのロックソーラン

今から数年前「お父さん達でロックソーラン踊りませんか？」の一言で始まったオヤジのロックソーランも今ではここまで大きくなりました、何故オヤジ達が踊ることを決めたのか？きっかけを与えてくれたのは職員たちの呼掛け、オヤジ同士の声掛け、ママの「パパも踊ってよ」の声、我が子のロックソーランを楽しそうに踊る姿と「パパは踊らないの？」との後押し、全てそれぞれから掛けられた声のお陰だと感じます、ロックの形に変えたソーラン節！繋がることが無かったかもしれないオヤジ達も、談話から笑い話へと、ロックソーランを通じ多くの繋がりを持つことが出来ました。そして、今年鳩の森30周年記念コンサートという大舞台に立てる事をオヤジ達は緊張と、誇りと、子ども達へのエールとして踊る事が出来る最高の舞台だと思っています。決して上手くはありませんが、沢山の人たちや子ども達に背中を押されて、変な汗をかいて練習してきました、そんなオヤジのロックソーラン「破・闘」とくとご覧下さい。

鳩おやじソーラン舞踏団「ONE・破・闘」団長 米倉

私たちはあすなろ保育園のお父さんたちが有志で集まって「ロックソーラン」を踊る会、そう「アラリオン」です。今年度も約３０名のお父さんたちが汗を流しています。
「子供たちに夢と感動を伝えよう！」というアラリオン結成当初の気持ちを受け継ぎ毎月1回の定期練習と、その後の冷たい一杯を楽しみに日々精進しています。
この30周年コンサートでも、子供たちそして客席の皆様に夢と感動を伝えられるよう一生懸命練習してきました。家での姿とは一味違ったかっこいいお父さんたちの姿をどうぞご覧ください。そして、家に帰ってきたお父さんに「かっこよかったよ」の一言、是非お願いします。

あすなろおやじソーラン舞踏団「アラリオン」団長 松元

今年のセイヤーズの目標は『より低く、伸ばす所じゃ伸ばす』です。
カッコよく見せるためにはどうしたらいいか、みんなで考えながら練習しています。
コンサートでも低くビシッと揃っている所に注目！！！
ドッコイッショの掛け声を皆さんも一緒に言って盛り上がってください。
大人、子どもみんなでロックソーランを楽しみましょう！！

瀬谷おやじソーラン舞踏団「セイヤーズ」会長 高山

合唱構成
「ぞうれっしゃがやってきた」

この曲は、歴史を取材されて書かれた同名の絵本（小出隆司さん原作）をもとに1985年9月〜1986年3月にかけて、「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」のみなさんや作詞の清水則雄さんとともに作曲の藤村記一郎さんが何度も話し合いや学習会をしながら作曲したものです。初演は1986年3月30日、名古屋市教育センターで、同合唱団が募集して集まった275人の大人と子どもたちによる「ぞうれっしゃ合唱団」の手で行われました。作曲家の藤村記一郎さんは鳩の森の卒園式に歌われる子どもたちの歌もたくさん作曲していただいています。
以下藤村さんのお言葉です。
「初演以来、全国各地では子どもたちの明るく元気に歌う姿、大人たちのやさしさ、真剣さにお互いが感じあい、歴史の事実を歌の中で“体験”しながら平和の大切さ、人間のすばらしさなどを語り合うそんな素敵な出会いがいっぱい生まれています。この曲をとおして、ひとりでも多くの人々にこの実話が語り継がれ、子どもたちの心の中に平和を愛する気持ち、手をつなぎ人として生きていく力が育っていったら・・・と願っています。」

演奏者プロフィール

指揮
田辺四郎

国立音楽大学作曲科卒業。小中学校の音楽教師を勤めるかたわら、ジュニアコーラスや吹奏楽の指導に携わる。
現在、「鎌倉ジュニア・オーケストラ」代表。鎌倉市民吹奏楽団「ミュージック・ファーム・アンジェ・ウインド・オーケストラ」常任指揮者。

ピアノ
山下 恵

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。パリエコールノルマル音楽院作曲科高等クラス卒業。パリ国立高等音楽院作曲科一等賞受賞、卒業。
神奈川県芸術祭第11回合唱曲作曲コンクール第３位。第62回日本音楽コンクール作曲部門入選。第1回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第３位。第13回名古屋文化振興賞受賞。
他にも日本、フランス、フィンランドで作品を発表。
ピアノにおいては、歌曲、室内楽、合唱などの伴奏者として活躍。

指揮
山本 ひで子

洗足学園大学声楽科卒業。二期会研究生修了後、俳優近藤洋介氏のもと芝居を1年間学ぶ。これまでに短期間にて渡欧を重ね研鑽を積む。第17回関西日伊コンコルソ入選。オペラ、ミュージカル等、多数出演。日本歌曲・独歌曲演奏会からCMや宗教曲のソリストまで幅広く活躍。最近では、ミュージカルの台本、演出を手がけ、オリジナルの舞台を港南区民文化センター主催にて公演。現在アマチュア合唱団を2団体、指揮･指導。また、横浜市立日吉台中学校合唱部委嘱顧問を10年以上続け、指揮･指導に勤める。
NHK文化センター講師。二期会、東京室内歌劇場、横浜シティオペラ、各会員。

お祝いメッセージ

横浜市泉区長
下村　直

鳩の森愛の詩保育園30周年及び記念コンサートの開催をお慶び申し上げます。また、鳩の森愛の詩30周年記念事業実行委員のみなさまをはじめ、コンサートに出演される子ども達、保護者及び先生方、保育園を支えてきた地域の関係者のみなさまにも、心からお祝い申し上げます。

鳩の森愛の詩保育園では、卒園児一人ひとりに先生方が詩を作り、プロの作曲家による歌をつけて贈っていると伺っています。この話を聞いて、瀬沼園長をはじめ先生方の子ども達への深い愛情を感じました。子どもとそのご家庭を我が事のように考えて力を尽くし、卒園後により深まるような保護者との信頼関係を築いてきたからこそ、このように大勢の方々が参加されるコンサートを開けるものと思います。

子育てを取り巻く環境は、いま大きな転換期を迎えています。平成27年4月から全国的に子ども・子育て支援新制度が始まり、子ども・子育て支援は社会保障の1つに位置付けられました。子育て家庭の状況・ニーズも年々変化をしていますが、そのような変化も細やかに感じとり丁寧に向き合っていく鳩の森愛の詩保育園の子育て支援に、今後も大いに期待しています。

泉区も平成28年11月に区制30周年を迎えます。私たちもこれまでに築いてきた地域とのつながりを大切にし、未来のまちの姿を描きながら、子どもたちにとって泉区が大切なふるさととなるよう、取り組んでいきます。

鳩の森愛の詩保育園の保育と子育て支援が、これからも子ども達の輝ける未来の礎となることを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

横浜市瀬谷区長
藥師寺 えり子

鳩の森愛の詩保育園開園30周年を迎えられましたこと、そして、記念コンサートを開催されますこと心からお慶び申し上げます。また、実行委員をはじめ、コンサートに参加される子どもたち、保護者の方、先生方にも心からお祝い申し上げます。

コンサートを通して、子どもも大人も、充実感につつまれるとともに、大きな感動を味わうことでしょう。

また、鳩の森愛の詩の保育の柱にもなっている「うた」を通じて、来場された皆様の絆が、一層強くなることと思います。

どうぞ、素敵なコンサートになりますよう願っています。

瀬谷区では、豊かな自然や人とのふれあいの中で、元気で心豊かな子どもや青少年を育む取り組みを推進しており、人のつながりと健やかな暮らしを育むまちを目指して、まちづくりを進めています。

鳩の森愛の詩の保育園が大切にしている「(大人も子どもも)共に育ち　共に育った」という思いを、引き続き地域の子育てに活かしていただき、お互いの成長を喜び合えるような、素敵なつながりが作られることを願っています。また、その「思い」が、次の世代にもしっかりとつながって、鳩の森愛の詩の保育園を中心に連綿と受け継がれていくことを願っています。

最後になりますが、鳩の森愛の詩保育園の今後ますますのご発展を祈念するとともに、これからも、こどもたちが明るい未来に元気に羽ばたいていくことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

作家
中川 李枝子

幼い子の一日は、うた・うた「おはよう」から
「おやすみ」まで。

「あそびましょ」「あつまれ」「あるこう」「はしろう」
「スキップ」「ジャンプ」

小鳥になって空でさえずり、動物になって行進、
魚になって泳ぐ。

「しーっ」と静かに目を閉じるのも上手。
どの子も全身でリズムをとって表現する。
保育園で共にうたい、共に育つ。

「鳩の森　愛の詩」の名称そのまま
すくすく　のびのび
お父さんもお母さんも一緒に成長、
気がつくともう30周年記念コンサート　未来へ　の開催！

ほんとうに　おめでとうございます。

横浜女子短期大学 名誉教授
社会福祉法人はとの会 理事
舩田 松代

「30周年を祝して」

鳩の森愛の詩30周年おめでとうございます。

理事長先生を始め全職員の皆様のお喜びも一汐の事と存じます。

昔の話になりますが、『赤いりんごに、くちびる寄せて』この歌は、戦後のすさんだ気持ちを優しくさせてくれたものです。戦後70年の今年、戦争を知らない人も多くなりました。そして本当に食べるものがなくて困ったという生活経験のある方も少ないでしょう。今、物が豊富になっても、心は豊かでしょうか?

さて、りんごおばさんのお話になりますが20数年前、若きりんご農家のご夫婦に出逢いました。無農薬で、美味しいりんごの生産に努力しておられ、かむとジワーツと甘酸っぱい香りと味、歯ざわりよい立派なりんごでした。美味しいりんごを子ども達に送りたくなりました。大好きな大好きな鳩の森愛の詩へが、りんごおばさんの始まりです。確か2園の時からかもしれません。鳩の森愛の詩保育園もこの30年の間にどんどん増えました。これは大変（笑）と思いました。

なぜ送り続ける事ができたのでしょう。

それは、送られてくる写真です。年長さんがりんごを丸かじりガブッと食べる姿、赤ちゃんのあの小さな手にりんごを握って一生懸命食べる姿、嬉しい風景です。そして、もう一つ私の心を豊かにして下さったのは、職員の皆さんから届く手紙でした。4センチぐらいの円型の紙に書かれた心ある文章。ご多忙の中お礼なんてよいのにと思いながら、本音はそのお便りが楽しみでした。何物にもかえがたい宝物です。

ひとり、ひとりを大事に育てられていらっしゃる鳩の森愛の詩。これからも益々大きな夢を抱いて平和で愛に満ちた子どものお城としてご活躍を心よりお祈り申し上げます。

りんごおばさん舩田松代

特定非営利活動法人 アジア地域福祉と交流の会 理事長
厚生労働省 元障害福祉専門官
中澤 健

瀬沼哲雄さんと鳩の森愛の詩を通して

＊瀬沼ご夫妻のこと

「鳩の森愛の詩」の文字を見ただけで唄い出したくなるような手作りの活動報告を送っていただいてから、もう30年になるのですね。もっと最近のような昔のことのような！兎に角、設立30周年、おめでとうございます。

鳩の森愛の詩保育園の設立より遡ること20年、1964年に私は設立者瀬沼静子さんのご夫君である瀬沼哲雄さんと初めて出会いました。哲雄さんが国立秩父学園の保護指導職員養成所に入られたからです。彼は、お酒好きな私につきあって一緒に呑みながら、弱い立場の人たちの側に立ち続けようと、青年らしい夢を語りました。一年後に神奈川県の松風学園に就職され、その後、静子さんと出会われてご結婚を決められたと聞いた時、心優しく、共に夢の実現を願う女性と出会ったのだと喜んだことを憶えています。助け合いながら、「鳩の森愛の詩保育園」は正に、ご夫婦の間に生まれた子供のような存在だったことでしょう。彼は静子さんを見守り協力し、その活動を彼自身の誇りとしていました。ところが、思いがけない若さで、哲雄さんは突然のご病気で逝ってしまいました。それからの日々、静子さんにはそれまでと全く違う日々だったことでしょう。此処まで来られたのは、間違いなく、静子さんと共に哲雄さんが生き続け語り続けたからだと、私は信じています。

＊マレーシアの移動おもちゃ図書館

障害をもつ子どもたちが、おもちゃを楽しみ、気に入ったら家に持ち帰る、丁度図書館のおもちゃ版を「おもちゃ図書館」といいますが、日本のように交通の便が良くないマレーシアで自動車に玩具を乗せて個別に家庭を訪問する移動おもちゃ図書館を始めたいと思っていた時、ご主人が長く支援したいと話していたと瀬沼静子さんが多額の寄付をして下さいました。そのお金でワゴン車を買い「移動おもちゃ図書館」を始めたのです。"Senuma"の名前でおもちゃを乗せて、今日もペナンの村々を走っています。現在私はマレーシアのボルネオ島にいますが、鳩の森の保育士さんたちを初め、瀬沼静子さんも幹太さんも哲歩くんも、この地に来てイバン族の人たちと交流する年が何年も続きました。懐かしい繋がりです。私たちの障害児者のセンターの利用者、スタッフもみんな、鳩の森の30周年おめでとうを言っています。その声は、聞こえますか。

＊鳩の森は平和の森

少子高齢という大変な時代を迎えましたが、これまでもこれからも大事なことは、命を守り育てることです。命の抹殺の対極にある、命を守る活動とは福祉活動です。とりわけ保育という小さい命を守り育てることは平和運動だと思います。かつて弱い命の側に立ち続けたいと言った瀬沼哲雄さんの願いは、静子さんの中で引き継がれています。今日本は、正に危うい時代を迎えています。抑止力といった、やくざの脅しのような言葉が大手をふるう時代です。本当の平和主義は、武器の増強ではなく、武器を減らし捨てることです。

鳩は平和の象徴です。健康な子どもたちが健康な社会を作ります。そして、その子どもたちが成長して弱い人を守り、日本の国を、世界を平和に導きます。職員もご父兄も鳩の森関係者の全てが理不尽に立ち向かい行動するよう期待します。子どもたちの未来のために。

鳩の森愛の詩保育園は、平和な国づくりの担い手として、果てしなく続く道をこれからも歩み続けることでしょう。畏友瀬沼哲雄さんは、これからも静子夫人と鳩の森愛の詩保育園を見守り続けるでしょう。30周年、遙かボルネオの地から乾杯を贈ります。

お祝いメッセージ

特定非営利活動法人 中川コミュニティグループ理事長

西ヶ谷 保秀

30周年を祝して

鳩の森愛の詩30周年記念コンサートが、盛会裡に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

無認可の保育園から始まり大きく発展されてきた30年の間には、平坦では無く関係の皆様の並々ならぬご努力の賜物とご推察致します。現在4つの保育園と2か所の放課後キッズクラブを運営し大きく発展された、社会福祉法人はとの会の皆様に心より敬意を表するものであります。

現在、私は中川地区センターの指定管理者として運営を行っておりますが、地域が行うイベントに、鳩の森愛の詩保育園の園児達の出演に依る「荒馬踊り」を幾度か見させて頂いています。可愛い園児達が一生懸命体を動かし躍動感溢れる踊りは、見ている私達も自然に太鼓に合わせて体がはずみ、掛け声をかけたくなります。荒馬踊りは保育園の重要な教材の一つだそうですが、まさに園児の成長の糧となる、保育の素晴らしい一環であると思います。

私はキッズと同様の岡津小学校の「はまっ子」の学童保育の運営に長年携さわらせて頂きましたが、キッズ保育が目指すものは子供同士の異年齢間の交流と、それぞれ個性ある子供達が上下の交流を深め、協調し合える人間関係をつくる為の手助けをする居場所づくりであると思います。次世代を担う子供達の健やかな成長を願って、キッズ保育のたしかな運営の発展を祈念致します。

鳩の森愛の詩保育園が提唱する「共育て・共育ち」は保育者と保護者が共に協力して、感性豊かな子供達を多く育んでこられたことは、この理念が多くの人の理解を得て実践されてこられた結果であると思います。

あらためて申すまでもありませんが、保育園は子供を預かるだけの施設ではなく、成長過程に於いて将来を託す人間形成の一番重要な時期でもあり、手間ひまのかかるものだと思います。これからも地域と共に歩む、鳩の森愛の詩保育園の更なる発展を心より祈念致します。

泉区社会福祉協議会 会長
社会福祉法人はとの会 理事

大貫 芳夫

「３０周年を祝して」

鳩の森愛の詩保育園３０周年誠におめでとうございます。又記念コンサートの会の開催誠におめでとうございます。

ご家族の大切なお子さんをお預かりし、しっかりとした保育をして保護者の皆さんに安心して戴くことが、常に求められていますので、日々大変なご苦労が多いことと推察しています、一年一年の積み重ねが３０年の節目の年を迎えられましたことに改めて敬意を申し上げます。

これも一重に前理事長瀬沼静子さま、理事長汐見稔幸さまはじめ歴代の職員の皆さんや、保護者の方々の温かい献身的ご努力の賜ものと思います。

施設も年々増え、職員の方々も多くなり法人としての規模も益々大きくなって来ていますので気苦労も大変とおもいますが皆さんで頑張って戴き、益々の成長を期待しています。

私達の地域の活動にも積極的に、ご参加戴きご協力を戴いています。特に新橋アッテ祭り、敬老のつどいでは太鼓や荒馬踊りで会を盛り上げて戴き、にぎやかに開催出来ています。地域といたしまして、３０周年を心よりお祝申し上げます。

記念コンサートも、多くのお子さんをはじめおとうさん、おかあさんの参加で大変盛会の会の開催となることと思います。大きな会場と大きな舞台に参加出来ることは、こどもさんの大きな財産になられることと思います。

鳩の森愛の詩保育園の益々の、ご発展と関係者の皆々さまのご健勝をご祈念申し上げます。

作曲家

谷川賢作

30周年記念コンサートの開催おめでとうございます。「鳩の森さんの音楽の取り組み方はすばらしいんですよ〜　みんな一度見においでよ〜！

ってそこら中の人達みんなに叫びたい。でも大事なのはそんな「取り組み方」みたいな杓子定規なことばじゃなくて、とにかくこどもたちもおとなたちも音と一緒に本気でころがり、じゃれあい、わーって興奮したり、時にはクスンと涙したり、そのことが自然体でふだんの生活からあること。

それでその延長線上での今日の記念コンサート。お父さんたち気合い入ってるなあ。ロックソーランだって(^o^)こどもたちもカッコイイお父さんみてしびれるだろうなあ。大事にしている珠玉の作品「ぞうれっしゃがやってきた」もまた歌われる。こうやって大事にリレーしていくこと、すばらしいなあ。出演者も観客も一体になって盛り上がるんだろうなあ＼(^O^)／

ああ、うらやましいったらありゃしない！

私だってこんな「おめでとう文」書いているより、次は一緒になってころがりじゃれ笑い涙したいです（つい本音　ごめんなさい(^_^;）

音楽のいいところって個人技とチームワークが一緒に体感できるところ。今日もまず自分がのびのび、そして人の音を感じてわくわくどきどき、お客様の拍手あびてやった〜と爽快な気分！幸せな一日を味わいつくしてください。重ねておめでとうございます。

元新橋小学校 校長
社会福祉法人はとの会 理事

村上 武久

鳩の森愛の詩創立30周年おめでとうございます。

30年と一口に言いますが、相当に長い年月です。自分に当てはめてみれば、教職に就き、子ども達と楽しく過ごした日々、あるいは、戦いに心を痛めてボロボロになった日々。それでも教え子と保護者に恵まれて、学級担任として充実した毎日を送っていた。今思えばよく乗り切ったとか、よく頑張ったとか、今じゃ考えられないとかの思いでいっぱいですが、その濃密な日々が思い起こされます。

個人での30年でも、楽しい思い出や辛い思い出が多いのですから、保育園経営の視点に立てば、更なる大変さがあったと思います。主体である子どもたちの保育活動、職員の資質向上に関する計画と取り組み、保護者との対応による園としての理念・方針の浸透。更には職員の厚生等に関する取り組みや対応、危機管理等々、ちょっと考えただけでも経営の大変さが伝わってきます。

困難な問題や辛い対応を見事に乗り切って、鳩の森愛の詩保育園が31年目となり同様にあすなろ保育園・瀬谷保育園・宮沢保育園等子どもと保護者のために保育活動の拠点を拡大してきたことは見事というしか言いようがありません。

31年前に、瀬沼静子園長先生が心に思い描いた夢の保育園が、今日まで形としてしっかりと実現されていることは、当事者の努力は勿論、子ども達と保護者と職員と地域の皆さんの理解や協力が得られたことの証でもあります。

私とハトとの付き合いは最近のことで、出会いは、平成14年度でした。瀬沼静子園長先生との顔合わせは、新橋小学校の校長室でした。当時の横浜市は子どもの健全な育成を目指して、子どもの居場所作り等の活動が推進され、学童の充実や「ハマっ子」・放課後キッズクラブ等々県や市の各部署の取り組みが絡み合う状況にありました。学校や地域の状況もよく把握していない状態での、子どもの話や学童・キッズクラブの状況と学校の協力要請の内容でした。

瀬沼先生の考え方や話し方には、気どりがなく、正直に生きてきた強さと子どもたちや保護者に対する優しさや愛情を感じました。とは言え、話の内容はかなりの厳しいハードルの高いものでした。

当時はハマっ子もキッズクラブも、学校の施設を活用しての取り組みでした。区役所との話し合い、委員会との話し合い、（委員会も部署により、見解が違うこともあり）判断が大変でした。学童の施設の利用期限が迫る中、学校の校庭の中に建物を建てて、キッズクラブを開設するなど、横浜の小・中、全500校でも珍しい事でした。地域内に、多くの保育園・幼稚園もあり、関係機関や地域の会長さん・連長さんにも、ご迷惑やらご理解やら取り付けながらのひやひやの決断でした。瀬沼先生の子どもや保護者に対する思いと「共育ち」の考え方に、共感したことが後押しをしたのかも知れません。

ハトは、歌あり、音楽あり、踊りありの活動が多く、初めて目にした時は驚いたものです。若々しい職員の皆さんが、生き生きと踊ったり歌ったりする姿にハトの経営方針やら、職員に対する想いやらも見えて、伝統として継続していく事を願ったものです。

創立30年、組織としては、ちょうど青年期から壮年期にかかる頃でしょうか。初めの頃の、なんでも、「子どものためになるなら取り組みましょう。」とか、「保護者の悩みや願いを叶えるためなら、こうしましょう。」の行動力や考え方が、スムーズに取れなくなることも出てきます。職員の研修も大切ですが、経営者としての基本方針にブレがないか、関連保育園の園長同士の考えや取り組みに、大切にする基本理念があるかどうか等、難しい時期と言えるでしょう。職員が替わり、園長先生の取り巻く状況も変わるかもしれません。ハトの良さにますます磨きをかけて、伝統と温かい思いを全職員が共有しながら、50周年・100周年が迎えられるよう、願っています。

30周年の記念コンサートを県民ホールでやろうという実行委員の保護者の皆様の意欲にびっくり。

本当に創立30周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

玉川大学 教授

大豆生田 啓友

鳩の歌は、愛の詩、みんなが輝く歌

30周年、おめでとうございます。

全国にたくさん保育園がありますが、私は、子どもと、保護者と、地域の人と、保育者や職員の方々が、これほど熱くつながっている保育園を他に知りません。それは、現代の日本においては、奇跡と言ってもいいでしょうね。すごいことです。私自身、ここの園につながらせていただいていることだけで、うれしい気持ちになれます。

そして、この園の魅力の一つは、「歌」です。歌は人と人との心をつなぎます。歌は人をとても温かい心にさせます。歌は、一人一人を輝かせます。歌は、絶望的な気持ちになる時も、私たちに「希望」を与えてくれます。鳩の歌は、まさに、「愛の詩」なのです。

30周年の記念の会が、みなさまのたくさんの歌の響き合いによって、盛会になることをお祈りしています。そして、この鳩のステキなつながりが、これからもさらに広がり、たくさんの人に、幸せをもたらせてくれますように。感謝と愛を込めて。

お祝いメッセージ

新橋小学校 校長
大島 孝昌

鳩の森愛の詩３０周年コンサートの開催、心よりお祝い申し上げます。

幼保小連携の一環として、新橋小学校は、鳩の森愛の詩保育園にたいへんお世話になっています。１年生との子どもたち同士の交流。職員による保育体験。新橋連合のお祭りでは、職員でお店を開いたりもしました。

また、保育園の運動会ではお父さんたちも大活躍。子ども中心の見事な卒園式。いろいろな歌をよく知っている卒園児など、感心することばかりです。

鳩の森愛の詩保育園は、子どもに寄り添い、子どもの気持ちになって、子どもを大切にしていると感じます。

心理学者のコフートは、人間は「自己愛」を満たしたい生き物だと考えました。自己愛が満たされなかったり、自己愛を傷つけられたりすると不快な感情をもつというのです。親から愛されていないと感じるとき、他人から大切にされていないと感じるときは、自己愛が満たされない状態になります。

コフートは、子育ての時期に自己愛をきちんと満たしてあげることが大切だと言っています。簡単に言えば、子どものころにほめられる経験をたくさんするということです。それと、もう一つは、無条件に愛される体験をすることが重要だとしています。

子どもたちがまるごと愛されている保育園、それが、鳩の森ではないでしょうか。

鳩の森愛の詩保育園のますますのご活躍とご発展をお祈り申しあげます。

和泉北部連合自治会 会長
いずみ野小学校放課後キッズクラブ 評議員
新井 永郎

「鳩の森愛の詩保育園の開園３０周年を祝して」

「鳩の森愛の詩保育園」が１９８５年４月に開園して、今年で３０周年をお迎えしましたこと誠にお目出とうございます。

開園当初は、園児２１名、学童４名、職員７名であったそうですが、３０周年をお迎えしました今年は、園児３６９名、学童654名、職員１６７名の大所帯に成長しています。

この間に「社会福祉法人 はとの会」と組織を整備し、傘下に保育園４か所を持ち、放課後キッズクラブ２か所と契約して運営するまでに規模を拡大しています。

またこの３０年の間に卒園者数は延926名となり、地域にとりましてなくてはならない保育園となっています。

私は、「いずみ野小学校放課後キッズクラブ」が発足した２００４年９月以来、同クラブ評議会委員として１０年余り、「鳩の森愛の詩保育園」による放課後キッズクラブの運営状況を目の当たりにしています。

学童の放課後、①子供たちの安全かつ快適に過ごせる場所として、②「遊びの場」「生活の場」として居場所づくりがなされ、③低学年から高学年まで誰でも参加でき、④障害の有無に関りなく充分なスタッフを配置し、年齢・発達段階に応じてプログラムを用意して運営している様子は、永年の保育園経営により培った経験が生かされたもので、日頃のご活躍に感謝するばかりです。

これからも４０年５０年と保育園経営を続けていただき、そのご経験を生かして地域に貢献していただけますよう祈念して、この度のお祝いの言葉とさせていただきます。

いずみ野小学校 校長
齊藤 由香

創立３０周年、おめでとうございます。そして記念コンサートの開催を心よりお祝い申し上げます。これまで、瀬沼園長様を始め職員の方々が一人ひとりの子どもの育ちと向き合い、保育で大切にしたいことを積み重ねて今日の発展につながってきていることと思います。

本校の放課後キッズの運営法人として「鳩の森」の皆様には大変お世話になっております。子どもたちの視点に立ち、本校の特色ある教育活動と関連づけて連携を図りながら楽しい活動をたくさん企画運営していただいています。同じように「鳩の森愛の詩保育園」も子ども一人ひとりに愛情豊かに関わり、育てていらしていることと推察いたします。コンサートの詳細や園の「おたより」を読ませていただき、地域や保護者と協働して子どもたちの居場所を作り、子どもたちが仲間と活動する楽しさを味わい、達成感をもてるようにしていることが伝わってきました。一口に３０年とは言いますが、ここに至るまでの道のりは長く、様々なご苦労があったことと思います。それでも、私どももそうですが、子どもの笑顔と、保護者の子どもを見て喜ぶ姿に癒やされ、励まされて続いてきたことでしょう。

コンサートの成功をお祈りいたしますと共に、どうぞこれからも、４０年、５０年と伝統を作り続け、たくさんの子どもたちを育てていただけますよう願っております。

声楽家　指揮者
望月 珠津余

鳩の森愛の詩創立30周年と、その記念コンサートに心からお祝いの心をおくります。

1996年度まで、お一人で作曲と合唱指導をなさっていた髙平つぐゆき先生が、ご病気のため、ご指導を続けられなくなり、私にお声をかけて下さいました。当時はまだ無認可で、今の鳩の園舎のみでしたが、その中に、せぬママをはじめ、お父さんお母さん、先生たちがほんとうにぬくもりあふれる空間の中で子供たちと輝いていました。私は吸いこまれるように鳩の一員になっていきました。そして私にとっての大きな驚きは、卒園する子供たちが、世界にたったひとつの自分の歌を胸に飛び立っていく卒園式のあり方でした。どこにもないと今もそう思い込んで、それを少しでもお手伝いできたことを、ほんとうにしあわせだと思っています。

でもこれをつくる過程では、たいへんなこともありました。忘れられないのは、1998年度の卒園式の準備でした。最後の一人の曲が送られてきたのは、卒園式の一か月前の２月はじめでした。すぐに録音に取りかかり私が吹き込み、お父さんたちが収録して下さいました。

終わったのは夜中でした。その時交し合った喜びも忘れられません。もちろん卒園式は無事に終わりました。そしてその年、せぬママは私に子供たちの卒園証書と同じ形の、ありがとうの証書を贈って下さいました。早速額に入れて、ずっと私の部屋にかざってあります、私にとっては大きな宝物です。

こんな歴史を経て鳩は今のように大きくなってきたんだなーと感無量です。

どうしてもご一緒にお祝いしたいという思いはいっぱいですが、同じ日にこちらで合唱団美樹45周年と姉妹合唱団の30周年記念ジョイントコンサートがあり、行くことができません、残念です。お許しください。

コンサートの成功を心からお祝い致します。

アートクラブ主宰
小林 哲郎

弥生台に通った四半世紀

３０周年ですか。おめでとうございます。長い道のりですが、傍らを歩んだ身にはあっという間にも感じます。少しだけ思い出話をさせてください。

鳩、恒例の５年ごとのコンサート（２３周年とかもありましたね）。その最初の５周年コンサートが開かれた頃から私と鳩とのお付き合いが始まりました。

当時、私は、ある美術教育の団体から友人達と独立し「絵画教室をやらせていただけませんか」と地図を手に中古車に乗り絨毯営業をしていました。何十軒回っても、営業の常、中々反応がない。そんなある日、伺った小ぶりな保育園。まあるい顔の園長先生は、お人柄溢れる笑顔で、話に耳を傾けてくれました。いつしか、子供達と絵の時間を持ち、保育者の皆さんとも話し合いを持つようになりました。しかし、深夜に及ぶ卒園の歌作りへの情熱、父母との深く濃い関わり（アルコールの匂いつき）、何かと言うと場所も気にせず皆で歌いだす歌声喫茶のり…正直ついていくのに精一杯でした。

既に何年か造形指導の経験はありましたが、エカキのアイデンティティーに拘り、糧を得るための仕事だとどこか思っていた若者（ばかもの）は、体ごとぶつかっていく鳩の姿勢に心が揺さぶられました。ここで自分ができることはなんだろうと考えました。

絵や造形は、ある意味曖昧です。直接何か役に立つとは限らないし、美しさには物差しもありません。プロ画家の額入り作品と３才の子がぐいぐいと描いた絵とどちらが素晴らしいかは何ともいえない、というか後者かもしれない。そんな子供たちに絵を教えるというのはどういうことか。いや、教えるより、彼等の頭の中の不思議な宇宙を開放する手助けをしたい。一緒に美しいものに感動したい…試行錯誤は今も続いています。

今、私が、大人になった卒園生たちと結びつきがあるのも、鳩ならではのことです。先日の３０周年大ＯＢ会の折にも、「先生、わたし美術館行くのが大好きなんですよ」なんていう話を沢山聞きました。デザインや美術の道に進んだ方も結構います。そうでなくても、絵が好きでいてくれることは本当に嬉しい。いえ、例え美術愛好家でなくても、空の雲の色に季節を感じ、道端の草にも美を感じてくれるなら、それだけで充分嬉しいです。

思えば、ずっと、鳩の森、そして子供達から、豊かなものを受け取る日々でした（豊か過ぎて受け取りきれないこともあったりして）。お陰さまで私も「濃い」お絵かき先生人生を歩ませていただきました。感謝しています。卒園生は大人になっても、鳩は第二のふるさとです。私もこの弥生台の片隅に棲む河童のような存在であれたらと思っています（見た目じゃないですよ）。これからもよろしくお願いします。

原小学校 校長
桃井 陽子

「愛の詩」高らかに…

鳩の森愛の詩３０周年コンサートの開催誠におめでとうございます。「鳩の森」の職員皆様の愛情たっぷりの子どもに寄せる思いがこの素晴らしい園の足跡を創りあげてきたと感じております。

子どもたちは、園の中で瞳を輝かせ、仲間と日々、新しいことがらに出会い、自らを成長させていることと思います。五感を働かせながら体全体を使って遊び、学び、毎日何かしら発見をしていることでしょう。その中で、自分の好きなことや苦手なこと、友達に優しくすることのうれしさや我慢することの大切さなどを感じ取り、その時その時のハードルを乗り越えながら、その子らしさを育んでいることでしょう。「愛の詩」はその子どもに寄せるたくさんの人の思いとそれに裏打ちされた子どもの成長の姿そのものです。

子どもは、次代を担い未来を生きる宝物です。子どもたちには「ふるさと」を愛し、夢や目標をもってたくましく成長していってほしいと願っています。私は、その子どもたちの「夢のお手伝い」をしていくことを、自分の職と位置づけてきました。

「大きくなるってすてきなこと」私もまた、このような思いで、愛に満ちあふれた園からのバトンをつなぎ「愛の詩」のリレーをしていきたいと思います。園でまかれたたくさんの種が、大きく、そして、たくましく育つように。

お祝いメッセージ

弥生台自治会会長

川久保 珪子

「鳩の森愛の詩30周年コンサートおめでとう」

瀬沼静子先生と同年同月生まれの友達です。

弥生台の町に来て15年が過ぎました。いつも弥生台南公園で遊ぶ、鳩の森の皆さんを、見守ってきました。元気が良くて、礼儀正しくて、暑さにも寒さにも強いそんな皆さんを、ずーっと見てきました。もう大学を卒業して、先生として鳩の森でご活躍されている方も、いるそうですね。頼もしい限りです。

カンガルーの赤ちゃんのように、大きなパパの胸に抱かれて、通園する桑原さんも随分大きくなられました。朝、駅前までの道をゴミを拾いながら、パパやママに手を引かれて通園する皆さんの姿を、それとなく見てきました。どの子も皆、明るく伸び伸びと育っている様子が伺えて、みんなすごいなあ！！と感心しています。

冬の朝、薄着の皆さんが遣ってくると、公園は一度ににぎやかになります。かくれんぼをしたり、鉄棒にぶら下がったり、おすべりをしたり、お砂場で遊んだり、思い思いに楽しい時間を過ごしていますね。家の中から、そーっと見ています。今日も、みんな元気で良かったと。時に喧嘩をして、大きな声で叫んだり・泣いたりしている皆さんを見るのは、本当に楽しいものです。

静子先生は、毎日このような至福の時間を、たっぷりと過ごしていらっしゃるのですね。羨ましい限りです。

さて弥生台自治会では、この度、「暮らし易い街作り」というテーマで、自分達に出来るささやかな街への貢献を始めます。まず、出来ることから、一つずつ！！私は公園掃除・ゴミ拾い・自治会のお世話・皆様の相談役・一生懸命頑張っていきます。

鳩の森の皆さんに負けないように、明るく・元気に・礼儀正しく・この弥生台の街を守っていきたいと、常に心がけています。

30周年の記念コンサート、本当におめでとうございます。お招き有難うございます。

田園調布学園大学子ども未来学部 子ども未来学科 学科長

矢萩 恭子

「魅力ある現場とともにある養成の幸せ」

いつも保育所実習でお世話になっている鳩の森愛の詩保育園の先生方、そして、園児のみなさま、卒園生の皆様、30周年に寄せて一言お祝い申し上げます。

本学科は、川崎市麻生区にある保育者養成校として2006年に産声を上げてからちょうど10年が経ちます。貴園の皆様には、この間たゆまぬ支えをいただいてまいりました。幹太先生と若き保育士の先生方には、学部1年生の必修授業に毎年特別講師として、大事な保育時間を割いてお越しいただいております。本学科からご採用いただいた卒業生達もお連れくださり、懐かしい母校の後輩達が未来の自分の姿を映しみる嬉しい機会を作ってくださっています。年を追うごとに保育者としての感性が磨かれていく彼らの姿を目の当たりにするにつけ、子どもとともにある日々のかけがえのなさを実感しております。

静子先生には、実習指導授業にて、学生たちへのご講演をお願いしたことがありました。保育所における子育て支援の実際についてというテーマでしたが、鳩の森愛の詩保育園の長い歴史の中で、保護者を信じ支える覚悟を実践されてきたエピソードの数々には一同感動を禁じ得ませんでした。また、我々養成の場で育てられるのか懸念された学生を、実習生として、温かく、懐深く受け入れてくださいましたことも忘れ難く思い出します。

人間に対する限りない深い思いに満ちた魅力ある現場とともにある幸せを思い、養成校として今後ともその絆を育んでまいりたいと存じます。どうかよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、貴園のますますの充実を心より祈念するとともに、厚く御礼申し上げます。

神奈川県立三ツ境養護学校 校長

永合 秀行

鳩の森愛の詩保育園設立３０周年おめでとうございます。

瀬谷保育園ができてから私たち三ツ境養護学校との関係はますます深くなりました。貴園は、地域とのつながりを大切にし、障害のある子もない子も受け入れていただける「共育ち」の保育園としてなくてはならない保育園です。

本校とは様々な形で連携させていただいています。保育園を卒園したお子様が本校に入学してきたり、本校のふれ愛フェスティバルで「荒馬おどり」を発表いただいたり、グラウンドや物品を活用いただいたりする身近な存在となっています。特に夏に開かれる「ふれ愛フェスティバル」では子ども達が汗いっぱいかいて踊ってくれる姿を見て私たちは元気をもらっています。分野は違っても行き来できる関係が築いていかれれば「障害があるから特別な存在」ではなくなります。こんなすてきな関係が次の４０年、５０年・・・ずっと続いてくれれば幸いです。

神奈川県では1984年（昭和59年）から「共に学び共に育つ教育」として取り組みを進め、2002年（平成14年）から「支援教育」を推進し、そして2014年（平成26年）から共生社会の実現に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び共に育つことをめざすインクルーシブ教育の推進に着手しました。

鳩の森愛の詩保育園が設立以来一貫して掲げてきた「共育ち」は、今後ますます時代の主流になってきます。そして地域にとって無くてはならない保育園として存在していくことと思います。今後ますますの発展を願います。

横浜市私立保育園園長会 会長
社会福祉法人はとの会 第三者委員

村田 由夫

鳩の森愛の詩保育園　30周年おめでとう

月日が経つのは早いものですね。鳩の森愛の詩保育園の30周年おめでとうございます。

その重みはたっぷりと保育園の今に生きています。

「せぬママ」の誰でも包み込むような大きな体と溢れる愛情と、保育が大好きのオーラに触れて子どもたち、職員、そして保護者の皆様の一人ひとりが、おおらかに鳩の森の生活を楽しんで鳩の森の保育園を創ってきたように思います。

一人とみんなが調和して何をしても楽しい、苦しいこと、悩ましいことも前向きに取り組んでいける。それがまた大きな力になって一人やみんなに戻ってくる。人の存在を丸ごと愛おしむ、鳩の森はそんなところではないかな。保育園という感じよりも、じかに子どもたち、職員の人間が感じられるのです。思いやりが行き届いて保育園の外まで追いかけてくるのです。

時々しか訪問する機会がないのですが、僕にとっては生きてるのっていいなぁ。人間っていいなぁとホッと一息つける場所です。

多くの方々と結ばれ、力として、法人と保育園のますますの活力を広げてください。

東北沢ききょう保育園 園長

山田 静子

未来に大きく羽ばたく鳩たちへ

瀬沼静子さん、「鳩」の職員のみなさん、三十年目のお誕生日を心からお祝いいたします。

「鳩の森愛の詩保育園」と知り合ったのは、当時「合研」や「乳幼児の生活とあそび研究会」で実践発表をしていましたので、関心を寄せてくださって、「鳩」の保育士を交代で保育実習をさせてほしいと真剣に頼まれたことがきっかけでした。主だった保育士さんを三十年近い前のこと、当時としては画期的な、「環境」に視点を置いたききょうの保育の取り組みを、「鳩」の保育に引き寄せて学ぼうとしていらっしゃったのです。ききょう保育園の男性保育者がつくった木のおもちゃづくに関心を寄せてくださっていたことを、鳩の森愛の詩園を初めて訪れたときに見て、驚いたのを覚えています。

無認可保育園を立ち上げ、父母や地域を巻き込んで認可保育園にするために、大きな借金をしてまで園舎を立ち上げたことを知りました。大きな夢に情熱を傾け、無いないづくしのなかなのにパワフルに行動している「瀬沼静子」という人に、私にはないバイタリティを感じたのを思い出します。

その後やっと認可になる努力が報われ、園舎の基準を満たすために手を加え、念願が叶ってお祝いの日を迎えましたが、弾けるような笑顔のみなさんに出会えたのを、つい昨日のように思い浮かべることができます。

一人ひとりの子どもに歌のプレゼントをする卒園式に招かれ、滂沱のごとく涙した私、親御さんよりも泣いたと思います。

二十周年のときだったでしょうか。鎌倉芸術館で見た和太鼓の響きにも圧倒されました。父母、卒園生、職員たち、総勢百人近い人たちの力強い太鼓に心が震えました。続いて「ぞう列車がやってくる」を見たのでした。大人も子どもも多くの動物たちが殺されたなか、東山動物園に生き残った象を見たいと、ＪＲが列車を走らせる物語です。職員と一緒に招かれた私は感動しました。

今年は三十周年となったお招きにいただきましたが、熊本市に病児保育協議会の全国大会に出かけていて、出席できず本当に残念です。どんなに盛会になるか想像しただけでわくわくしてしまいます。

静子さん、鳩のみなさん、三十周年、おめでとうございます。

社会福祉法人あおぞら福祉会 あおぞら保育園 園長

仲原 りつ子

鳩の森愛の詩保育園の設立３０周年を心よりお祝い申し上げます。

「せぬママ」との出会いから早いもので１１年がたちました。保育へのあくなき探究心、高いこころざし、強い意志、いかなる困難にも臆することのない潔さ、食へのこだわり、歌うことへのこだわり、そしてなによりも深い人間愛に基づいた、にこやかな笑顔とおだやかな話しぶり…。「せぬママ」にお会いするたびに楽しく、そして学ぶことの多い１１年でした。

私の保育園には「鳩の森」のファイルがあります。そこには手づくりの素敵な卒園式の案内状やコンサートのパンフレット、職員からのお礼の手紙等が入っています。中でも私が大切にしているのが毎月送られてくる「鳩の森のおたより」です。巻頭の「せぬママのエッセイ」鳩の森の創設のころの苦労話、卒園生や元保護者や地域の方との交流、良きパートナーだった御夫君との思い出や御自身の子育てのエピソード…。人と人とが出会い、支えあうことの大切さがしみじみと伝わってきて、毎月、今月はどんなことが書かれているのかと、とても楽しみにしています。

お会いしたころは「鳩の森愛の詩」「鳩の森愛の詩あすなろ」の２園でしたが、その後「瀬谷」「宮沢」「あすなろちいさなおうち」、新橋小学校といずみ野小学校の「放課後キッズクラブ」と、地域福祉のパイオニアとして年々活躍の場を広げ続ける社会福祉法人はとの会。支援する層の厚さも、その理念を受け継ぐ若いリーダーの成長も、ひとえに「せぬママ」のなみなみならぬ情熱と努力の賜物とあらためて思います。

もっと「せぬママ」とお話したいと思いつつ、数年に一度しか

お祝いメッセージ

お会いできないもどかしさはありますが、ここ沖縄の地で３０周年記念コンサートの御盛会と、社会福祉法人はとの会の御発展、そして「せぬママ」のますますの御活躍と御健勝を心より祈念申し上げます。

キープ協会 研修交流事業部（写真家／森の案内人）

小西 貴士

「あのう…、ファンです」

鳩の森愛の詩30周年、皆様おめでとうございます。僕は普段は清里高原の森に居ます。そこの森で、鳩の森の子どもたちや先生やお父さんお母さんと一緒に、ひと時を過ごさせていただいています。

鳩の森の皆さんが、森へ来られることを僕はいつも楽しみにしています。僕は、子どもや子どもの周りに漂っているものを写真に撮り続けてきました。写真家の僕にとって、子どもやその周りにいる大人のイメージというものは、とても大切です。もちろん人の数だけと言ってもいいくらいのイメージがあるのですが、その中でも大切だと思っているのは、ポジティブなイメージです。それは、毎日の暮らしの中にはいろんなことがあって、そりゃ苦しいことや辛いことだってあるけれど、でもこのことはこうなんだよ！という前向きな肯定的なイメージです。鳩の森の子どもや大人の周りには、そのイメージがいつも確かに漂っているところが、僕は絶対的に好きです。例えばそれは、毎日の暮らしの辛い苦しいだけに引っ張られない、これ楽しもうよ！というあたりです。次世代に継いでもらいたい最たるものは、ポジティブなイメージなのではないだろうかと、最近僕は思っています。保育園というコミュニティの営みに対しての、自己（私たち）肯定感のようなものです。そこなくして、保育の質云々を問うても、豊かさや幸せはないのではないだろうかと思っています。長々と書きましたが、つまりは僕は鳩の森に漂うポジティブ・イメージのファンなのだと、この場で改めて告白しておきます。また森でお会いしましょう！

旭区「九条の会」

杉浦 久美

鳩の森愛の詩保育園が３０周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。３０年、長い年月ですね。鳩の森で幸せな保育園生活を過ごしたお子さまたちは、何百（千）人になるのでしょう。「みんな　おはよう」で始まり、パパやママのお迎えに「さようなら　またあした」で帰り道につく鳩の森の毎日。そんな毎日がとても大切な日々であることを、先日ちょっと年上の知人から教えられました。

７０年前のある朝、幼稚園生だった彼女はいつものように元気いっぱいに幼稚園へ行きました。すると兵隊さんが立っていて「ここはお前たちの来るとこじゃない。帰りなさい」と追い返されました。彼女は泣きながら家に帰りました。お友達や先生と歌ったり遊んだりした大好きな幼稚園が、とつぜん兵隊さんの宿営所になってしまったのです。もしも、鳩の森が同じようなことになったら・・・そんなこと、考えたくありませんね。あたり前の毎日はこんなにも大切だったのです。

世界にはもっともっとつらい思いをしている子どもたちが今もたくさんいます。日本では　戦争や武器の放棄をうたった憲法九条に守られて７０年間平和が続いてきました。大人はどんな時でも、幼いこどもたちが安心してのびのびと成長できるようにと努力しています。どの子も人として尊重され個性を伸ばし心ゆたかに成人して欲しいと願っているからです。そんな大切なこどもたちに平和な未来を伝えたい。その想いで九条の会を続けてきました。

みんなの大好きな鳩の森は40年50年とずっと続いて欲しい。日本の戦後も80年90年といつまでも戦後が続いて欲しい。でも、九条の会の活動は不要になる日が早く訪れて欲しいと切に願っています。

いつも、みなさまと共にこどもたちの幸せをお祈りしています。

いずみ野小学校地域コーディネーター
いずみ野小学校放課後キッズクラブ 評議員

松尾 攻雄

鳩の森３０周年大変おめでとうございます。

一言で３０年といいますが、３０年を迎えるまでには幾多の困難を乗り切ってこられたことと推察いたします。

私は私立の中学校・高校で育ちました。

１０年ほど前に創立５０年を迎えた折に最初から教鞭をとられていた先生が健在であったことに驚きとなつかしさが、変わらぬ教育方針、我々が勉学に遊びに過ごした当時の温かな雰囲気を懐かしく感じた次第です。

「紳士たれ」当時の校長の言葉は今でも覚えていますし、大後輩の生徒にもその言葉は脈々と受け継がれていることも誇らしく思った次第です。

さて、鳩の森は瀬沼先生と保育士の先生方子供に携わる多くのみなさんの子供たちへの変わらぬ愛と熱い想いが、脈々と受け継がれているからこそ今の繁栄があると思います。

決してぶれない、決して曲げない。の基本は子供たちへの愛です。

それがある限り、たとえ建物はぼろになったとしても鳩の森は永遠に不滅です。

場違いなお祝いの言葉になってしまいましたが、形でない本当の愛と教育こそがあると信じているからです。

改めておめでとうございます。５０年、１００年続く鳩の森になりますよう。

東京成徳大学 教授

塩谷 香

鳩の森に感謝です

まだ私が若かりし頃、保育士としていろいろ思い悩むことも多かった時代、たまたま研究会の見学で鳩の森へ伺うことになったのです。私も若いけれどせぬママも思い切り若かった！こんな保育園があるんだ！と衝撃を受けました。その年度の卒園式に伺い、目が覚めたような思いに襲われました。一人一人に送る思いをのせた歌がある、なんて一人一人を大事に大事にしているんだ！と感動しました。その時から私の保育、考え方すべてが変わったように思います。子育て真っ最中で心身ともに疲れ果てていたのかもしれませんが、気持ちもカサカサでした。でも子どもを慈しんで大事に大事に育てることで、大人も大切なものをたくさんもらうことができるんだと改めて実感して、今を大切に生きようと思うことができました。

そして大学の教員になってから、教え子が実習生や職員としてお世話になるようになって、再び鳩の森に出会うことができ、不思議なご縁を感じました。

子どもも保護者も職員も、実習生や地域の方々までみんなが大切にされ、みんなを大切に思い、共にいることに喜びを感じられる鳩の森は本当に素晴らしい保育園です。たいしたことは何もできないのに、私が鳩の森と一緒にありたいと思えるのです。

30周年おめでとうございます！これからの30年、いえ100年ずっとずっとこの愛のあふれる保育園が続きますように、心から祈っています。

前新橋小学校 校長

笠置 享子

未来に ＜つなぐ＞ 鳩の森

鳩の森30周年記念コンサート開催、誠におめでとうございます。

私は、弥生台にある新橋小学校に８年間勤務しておりました。学区にある保育園という以上に、様々な面で鳩の森の素晴らしさを目の当たりにしてきました。私なりに、30年の重みが実感できます。

新橋小学校のキッズクラブは、鳩の森法人が運営してくださっていました。キッズとしてのあゆみは10年くらいになるでしょうか。四季折々のイベントも楽しさ満載でしたが、日々の中で子ども同士を＜つなぐ＞活動に力を入れてくださっていると感じました。教室は同年齢の集団ですが、キッズでは異年齢の縦割りが常態です。何をするにも上級学年の子たちが考えを出し合い、リーダーシップを発揮して活動をまとめていました。ここで育つ力は得難いと感じました。また、皆さんもご承知のように、キッズは保護者を巻き込んでの活動も充実していて、そういう面でも＜つなぐ＞ということを大切にしていると思います。新橋小学校の職員もイベントに招いていただいたり、教室外での子どもの姿をキッズのスタッフと情報交換させていただいたり、保護者と同様につないでいただいていました。

鳩の森、あすなろの両園と新橋小学校の幼保小交流事業も密度の濃い、また、質の高い交流ができていました。園と小学校の子ども同士をつなぐ、保育者と教員をつなぐ、園児の保護者と小学校をつなぐ、園と小学校が一緒に地域とつながる。ここにも、たくさんの＜つなぐ＞がありました。横浜市子ども青少年局主催の会で、交流の様子を発表したのは記憶に新しいところです。関内ホールの大舞台で全市に向け、私たちの取組を発表できたことは幸甚です。あらためて、鳩の森やあすなろの園長先生はじめ、職員の皆様に感謝申し上げます。

新橋小学校に在職した８年間の中で、鳩の森保育園の素晴らしさを実感した最大のイベントは、卒園式です。毎年、新橋小学校の体育館で行われていましたので参加しておりましたが、20人余りの卒園児一人ひとりの歌があり、それを皆で歌ってあげるのは圧巻でした。人生の中でこんなに華々しく輝いて主役になれる時間は、そうそうありません。卒園児にとっては大人になっても忘れられない宝物だと思います。そして、卒園しても鳩の森を心の故郷にして成長していく子どもたち。それが、３０年という歴史の中で綿々とつながれ、今の鳩の森があるのだと思います。

節目の30年を契機に、今後も未来に向けて大きく広く＜つなぐ＞鳩の森であることを心から願っております。ますますのご発展をお祈り申し上げます。

子どもOB会

池田 未佳

鳩の森愛の詩保育園３０周年、おめでとうございます。卒園してからもう11年も経った事に、今とても驚いています。今でも保育園の記憶が鮮明に残っているのは、それだけ鳩の森での生活が新鮮で楽しいものだったからだろうなと思います。

最近、部活の仲間と、自分たちが卒園した保育園について話したことがあり、他の保育園の話を聞いて私が思ったことは、やっぱり鳩の森はいいなーということです。

他の保育園がどうとかいうことではなく、ロックソーランも荒馬も鳩の森まんじゅうも、鳩の森にしかなかったからです。

恐竜の卵を見つけたのも、忍者に手裏剣をつくったのも、織姫様にあったのも私だけで、なんだかとてもうれしかったです。そして何より私が自慢に思うことは、私の歌、「みかちゃんのうた」がある事。これはやっぱり嬉しいですよね。自分の歌がある人など、鳩の森をでた人以外で今までに会ったことがないですから。この歌はこれからもずっと私の自慢になることと思います。

これから先も私や卒園児、未来の卒園児にとっても自慢の鳩の森愛の詩保育園でいてください。

お祝いメッセージ

新橋連合自治会 会長
横山 和夫

鳩の森愛の詩保育園３０周年記念おめでとうございます。鳩の森愛の詩保育園は相鉄線弥生台駅近くにあり、非常に便利であると思います。緑の多い町新橋、環境も良く公園等もたくさんあります、本年1月に開園した新橋の森公園も良い遊び場所です。

保母さんも小さいお子さんの行動に神経を使い苦労も多い事と思います。

又、仕事をしながら子育てしている、ご両親もご苦労もあると思いますが、反面喜びや楽しさと共に希望もわいて来るでしょう。

数年後には小学生、中学生と希望に満ちた生活するよう頑張ってくださるよう願っています。

最後になりますが鳩の森愛の詩保育園の益々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせて頂きます。

いきいきあすなろ 代表
社会福祉法人はとの会 評議員
中野 宏徳

鳩の森愛の詩３０周年おめでとうございます。

一口に３０年と言っても、鳩の森愛の詩設立時に０歳児で入園した子供達が３０歳になり、今度は自分の子供を保育園に通わせているような長い時間です。その間、子供が０歳から育ち始めるように鳩の森愛の詩も設立以来一歩一歩成長を続けてこられ、現在は保育拠点を数か所擁する大規模な社会福祉法人に成長されました。お慶び申し上げます。

さて、私たちボランティアグループ「いきいきあすなろ」は、あすなろ保育園が設立された頃に活動を開始しました。平成１４年5月のことですから今年で13年目、開催回数は２８０回を超え、来年3月には３００回の記念すべき時を迎えます。これも、ひとえに瀬沼様はじめ関係者皆様のご協力の賜物と心から感謝しております。

活動の内容は、地域の高齢者と保育園児・熟年ボランティアの交流です。

主な活動場所として、あすなろ保育園のフレッシュルームを提供して頂き、あすなろ保育園の「おひさま組」の子供たちと季節に応じた遊びやゲームをして楽んでいます。たとえば、お正月は「かるた取り」や「福笑い」、その後は雛祭り、端午の節句、七夕祭り、スイカ割り、クリスマスなど。また、小川に笹舟を流したり、長屋門公園で竹馬や竹トンボに興じるなど素朴な遊びに子供の興味は尽きません。

現在はIT時代で、小さい子供の頃からパソコンやスマホでゲームに没頭するような環境ですが、私たちは昔ながらの遊びの面白さや電化以前の道具を子供たちに紹介するなど、おじいさん・おばあさんとしてお手伝い出来ることを心掛けています。これからよろしくもお願いします。

全国有機農法連絡会 代表
米山 正　米山 宏子

鳩の森愛の詩 30周年記念コンサート おめでとうございます。

全国有機農法連絡会はお米や野菜を宅配して３０年になります。山形県寒河江市にある農場から有機農業の発信をし、園長瀬沼静子先生の「食はこども達のいのちを培う」の理念もあり長くご支援頂いています。

10年ほど前から続けられている研修の旅も「山形食育の旅」となって、回を重ねるごとに、保育と農業が重なりあい理解が深められています。

到着早々の「農を学ぶ」講座では作物を育てる立場から代表米山がお話しし、こどもを育てる立場から保育士さんや給食の先生方から日々の実践をお聞きします。共通の思いは「いのちを育てる」です。食と農がこんなにも緊密に結びつき大切なことだという学びも深められます。

5月に来られた時には農業実習が早朝から行われ、数千本の苗が定植されます。

日々の保育活動で鍛えられた若者たちは機敏に動き、定植からネット張りまで見事に仕上げてくれます。こうして作物が育ち各園に届けられた時、その喜びが素敵なレターになって還ってくる、うれしいリフレインです。

食の旅はまた田舎料理発見の旅でもあります。若い人達は未経験の山菜や乾物料理に、戸惑いつつも山里の味になじみ、多様な食文化を感じとってくれます。

楽しい語らいに夜も更け、フィナーレは「ぞう列車よ走れ」、大きな歌声は館内に響きます。合唱は力強く心を揺さぶり、平和の尊さを忘れない、戦争をしてはいけないという強い思いを刻みます。

「共育て、共育ち」を理念として30年を歩まれた希有な保育園、鳩の森愛の詩保育園がこれからも人を育てる大切な場所でありますように。

関東学院大学 教授
土谷 みち子

鳩の森愛の詩３０周年記念コンサートに寄せて
～これからも子どもの未来をよろしくね！～

鳩の森３０周年、おめでとうございます。

１５周年、２０周年のコンサートやパーティーに出席させていただきましたが、昨日のことのように新鮮な思い出がいっぱいです。いつも若々しい鳩の森の秘密は何でしょうか？子どもと大人が、いつも楽しい同じ生活をしているようで、大切なヒト、大切にしていることを守っているから？いやいやそんな単純ではないかも！それは、きっといつも子どもの未来を考えているから、いつも過去にこだわらずに生きている大人がいっぱいいるから、若々しいのかもと考えます。

このところ、子どもの未来は心配です。いつも鳩の森が考えてきた、愛と平和を守りたいと切に思うようになってきました。そして、子ども達の瞳の輝きを取り戻したいとも思います。これまでも、これからも、鳩の森があれば、この国に光が消えることはないでしょう。

はとのもりの卒業生も職員も父母も、子どもの未来をよろしくね！

EDITOR
木村 明子

鳩の森愛の詩保育園３０周年、おめでとう！！

１９８５年3月1日、弥生台の一角に誕生した「鳩の森愛の詩保育園」。私の手元にある「５周年記念誌」に次のような巻頭言が載っています。

私たちは、この新しい街弥生台に、次のような理念をもった新しい保育園をつくります。

この街に朗らかな子どもたちの笑い声がこだまし、やさしいお母さんたちの笑顔がひびきあい、保育者が自分を精一杯出しきったみんなの保育園にします。

私たちは、地域の子どもを育てているお父さん・お母さんたちと一緒に共感しあえる保育をめざします。

私たち自身が、お父さん・お母さんたちと手をとりあって、子育てを取り巻く困難に立ち向かい、互いに相談相手になり合って子育てのすばらしさを手にしていきましょう。

のびのびと心豊かに育ち合う子どもたちと、共に生きる人間として感動し輝く毎日を創りたいと思います。

この“宣言”のとおり、志を抱いて集った保育者のみなさんは、保護者の方々・地域のみなさんと手を携え、一歩一歩また一歩…そうして、鳩の森愛の詩保育園は今日まで歩んできました。おそらく当時はまだ、「子育て支援」という用語は社会に現れていなかったかと想像します。でも、せぬママたち職員のみなさんは、子どもたちが健やかに育つ環境をなによりも思い、保護者の方々・地域のみなさんと“共に育ち合うこと…成長していくこと”を大切に考えてきました。同誌には、今は理事長でいらっしゃる汐見稔幸先生の寄稿文も掲載されていますが、改めて汐見先生の、時代を読む…、子どもはもちろん大人たちも誰もが育ち往く社会を見通すまなざしに打たれます。

鳩の森愛の詩保育園のみなさん、３０周年、おめでとうございます！！　今日は、みなさんの荒馬踊りや合唱を楽しみに駆けつけます。みなさんの力が、３５年…５０年…７０年…先遙か後々まで続いていく鳩の森愛の詩保育園のなによりの支えとなっていくにちがいありません。

子どもOB会
三谷 優希

３０周年記念コンサートによせて

３０周年記念コンサート開催おめでとうございます。

私は鳩の森愛の詩保育園に0歳で入園してから、学童クラブ、キッズクラブと１２年間お世話になりました。あっというまの１２年間でした。

今思い返してみると、鳩の森愛の詩保育園での生活はとても楽しく充実した６年間でした。春の遠足、運動会、バザー、クラスレストラン、荒馬座、太鼓、お泊り合宿で織り姫様に会いに行ったこと、おひさま組になると、毎日交代でチャクのえさ当番をしたり、お米をといだり、下のクラスのお手伝いに行ったりと、楽しいことばかりでした。そして卒園式では、世界で1曲の「ゆうちゃんのうた」をもらいました。他ではできないたくさんの貴重な経験をし、一生の仲間と出会い、そして今でも駅で会うと「お帰りなさい」と声をかけてくれるたくさんの心温かい先生方と出会うことができました。本当に鳩の森の先生方にはお世話になりました。

そして現在私は、そんな先生方のように将来子供にかかわる仕事に就くために大学で学びながら、新橋小キッズクラブでアルバイトをさせていただいています。実際に子供たちに接してみると難しいことや、どのように接していいのかわからないことが多々あります。そんな時には今まで私に接してくれた先生方が私に接してくれたように子供たちに接するように心がけています。大変なこともあるけどそれ以上に子供達と接することがとても楽しいです。

これからも笑顔にあふれた素敵な鳩の森をこれからも皆さんで作っていきましょう。

大人OB会
弁護士
田中 徹男

鳩の森 ３０周年に寄せて

私は、せぬママに頼まれて、平成１８年頃から毎年春に、保育士さん向けに「個人情報保護条例」についての講義をやっていて、今年で10年になります。そこでは、外に不用意に情報を漏らさないということは大事なんだけれど、園内で子供の情報を保育士みんなで共有することはとっても大事です、と言っています。昔から鳩の森は、情報が伝わるのがそれはそれは早かった。たとえば・・・・「連絡ノート」に、父が、寝るときに聞かせるお話を適当にでっち上げ、『桃太郎』の弟で兄の真似をして大金をせしめようとするがことごとくうまくゆかず、最後に「キャバレー鬼ヶ島」でしこたまボラれてとても怖い思いをする『桃ジロウ』なあんてくだらない話をしたら・・・キャッキャと受けた。なんてことを書いたりすると、夕方お迎えに行く頃には、担任の◎◎ちゃんだけじゃなくて、みーんなが

お祝いメッセージ

その話を知っていて、「もう、おっ父さん、面白いんだからぁ」と揶揄されて、なんだかうれしい・・・・。

とまあ、こんなでした。でもそういうことが、保育の質と安全を支えていると思うのです。ちいさな無認可保育園のころからの伝統で、ひとりひとりの子どものことを大人全員が気にかけて話をして、親ともよく立ち話して、そんな中から、こどもや親のわずかな変化にピンとくる。それはものすごい能力です。

だから、たとえ園が大きくなって若い職員の方が増えても、そういう、おしゃべり好き、聞き上手のところは失くさないでほしいな。と思うのです。

３０周年おめでとうございます。

いずみ野中学校ＰＴＡ会長
新橋小学校 学校・地域コーディネーター

竹井 治子

鳩の森愛の詩３０周年記念コンサートの開催おめでとうございます。

私の「鳩の森愛の詩保育園」との出会いは、現在大学1年生の娘が新橋小学校に入学した時からですので、もう13年になります。地域のお祭りで初めて「鳩まん」を食べてから、一家で「鳩まん」の虜になっています。

また、地域の行事や鳩の森保育園運動会で「荒馬踊り」・「父親たちのロックソーラン」を拝見させていただき、子どもたちが小さい体で一生懸命踊る姿、そして先生やお父さんたちが子ども以上に楽しそうに踊る姿をいつも楽しませていただいています。

そして、現在中学２年生の下の娘が新橋小学校に入学した時に、鳩の森愛の詩宮沢保育園の瀬沼幹太園長と子どもの保護者として出会い、最初のクラス懇談会でのＰＴＡ委員決めの時、担任の先生の「学年学級委員を引き受けてくださる方！」の呼びかけに、私と瀬沼幹太さんが同時に手をあげたのを覚えています。その時はまだ鳩の愛の詩森保育園の先生とも知らず、「このお父さん何？」とちょっとビックリしました。

それから現在まで８年、幹太さんとは、子どもたちの笑顔のために一緒にＰＴＡ活動をしてきた戦友となりました。楽しんでＰＴＡ活動をしてこられたのは、幹太さんのお陰と感謝しています。

幹太さんが、いつも一生懸命なのは、鳩の森愛の詩保育園の理念である「共育て共育ち」を自ら実践され、子どもが成長するためのサポートは勿論、ご自身が親として成長していくためであり、頑張っている姿にいつも頭がさがる思いでいます。

新橋小学校の前校長の笠置享子先生が、子どもたちにいつも言っていた『いっしょうけんめいがかっこいい！』という言葉！私の大好きな言葉です。今の時代、一生懸命頑張るなんてカッコワルイ！と思う人が多いかも知れませんが、私は「どんなことも一生懸命頑張る事が大切だ！」と思っています。

手を抜くと後悔するのは自分ですが、一生懸命頑張れば、たとえ失敗しても悔いはないと思います。

今は中学生になった下の娘と「共育て共育ち」を私も実践していきたいと思っています。

本日は、誠におめでとうございます。

大人OB会
合唱団初代団長

畑中 富太

発足当時の合唱団

合唱団の初代団長として一言・・・といわれてかれこれ、25～6年も前のことではっきり思い出せませんが、団長にされてしまったことのいきさつから思い出してみたいと思います。

あれは確か、1989年に行われた5周年記念コンサートの後の数日後、保育園に立ち寄ったときのことでした。運悪く、せぬママに捕まり、団長をお願いされ再三断ったにもかかわらず最後には押し切られ引き受けてしまったのが始まりでした。断った理由と言いますのも私、音楽は好きではありますが楽譜が読めないし、しかも音楽の先生がたくさんいらっしゃると言うのに、なんで自分なのか納得がいかなかったからです。しかし、引き受けたからにはやるしかありません。さあー、それからが大変でした。話は前後しますが、いろんな行事がありました。恒例の卒園式のうたは勿論の事、神奈川の歌声合唱発表会、泉公会堂のこけらおとしへの参加、10周年記念のCD作成とコンサート、そして卒園児の詩の作曲を手掛けてくださった高平つぐゆきさんの作曲活動30周年を祝うコンサートなどのほか、うた以外では、保育園の認可に向けた様々な問題を話し合う認可検討委員会などが歌のレッスン日と重なったり、目のまわるような忙しさであったのです。なかでも自分としては特に大変だったのは、コンサートや卒園式での歌の本番ではすべて暗譜でうたうという高平おじさんの指導方法でした。暗記力の悪い私にとってこれ以上の大変なことはありませんでした。

高平さんの作って下さったパート別のレッスンテープをイヤホンで聞き、片手には楽譜を持ち、行進曲のように歩調を合わせ通勤しながら暗記を試みましたが結局は覚えきれませんでした。

そんなある時、勇気と希望を与えてく下さった高平おじさんの一言は今も忘れません。その言葉とは、『鳩の森の記念合唱団は決してじょうずとはいえませんが、みなさんには誰にも負けないものがあります、それは笑顔、百万ドルの笑顔です。勇気をだして指揮者の方を向いて歌いましょう』でした。

なるほど、私たち合唱団のメンバーも毎年入れ替わっていくのが常で、素人集団です。レベルアップの努力はするものの、私たちに出来ることといえば、心を込めて笑顔で歌う以外にないと思ったものです。合唱団が発足してから26年もたち、卒園児も増え、うたづくりへの取り組み方や環境の変化は多少あるかと思いますが、このうたづくりを通して親も子も、そして保育者全員で共に育ちあっていることを実感できる取り組みが、記念合唱団の原点でもあります。是非、百万ドルの笑顔を忘れずにこれからも歌い続けていかれるようがんばって下さい。

工房ばぶ

曳田 宏

半歩と半歩で『一歩』がなり立ちます

鳩の森愛の詩30周年コンサートおめでとうございます。30年、ひとつの節目を感じさせてくれる時の長さです。ごくろう様でした。そしてこれからも元気でいきましょう。

私達のこの地球に人類が生まれて400万年。そしてこの地球という星が宇宙に誕生して46億年の歴史があるといわれています。その46億年の時間の長さを1年365日の尺度に納めて考えると、1月1日の０時０分に地球が生まれ、人類が生まれたのは何月何日でしょう。シンキングタイムスタート。はい、ストップ・・・その答えは365日目の、すなわち大晦日（12月31日）の16時頃になってようやく人類が誕生。時の流れの長さとは短くもあり長くもあり不思議ですね。

ちっぽけで実にささやかな私達の暮らしの営みですが、コツコツと丹念に明るく朗らかに生きていきましょう。原発事故や廃炉作業などの問題（課題）解決に向けては何世代にも渡ってバトンをリレーして取り組まないとなりません。志のありかを明らかにして是非成しとげないとなりません。

この30周年記念コンサートは『志のありかを明らかにする』ひとつの貴重なひとときです。大いなる想いをみなさんと共有していきましょう。コンサートおめでとう。

社会福祉法人 苗場の会
緑園なえば保育園 園長

向田 まり子

鳩の森愛の詩３０周年記念コンサート開催、おめでとうございます。

鳩は、いつも目をまんまるにして前を見てあちこち周りを見渡して、歩いています。

そして、何より平和の象徴として、鳩は飛び続けています。

瀬沼先生の鳩に寄せる思いが３０年引き継がれ、子ども達に、保護者に、地域に根付き根を張っていったことは、職員の皆さまが一丸となって子どもにとって良いことは何でもするという、熱い思いがあったからこそ出来ていった事とただただ感服するのみです。

緑園なえば保育園と鳩の森愛の詩のお付き合いは、前園長故青木マリ子氏からの３０年からの長期にわたりさせていただいております。青木園長が「せぬママ」「かずえちゃん」と、何とも親しみやすい呼び名で呼んでいたことを、私はとても印象的でした。

その頃の私は、まだ苗場には直接関わる者ではありませんでした。我が子を連れて青木園長宅にあそびへ行くと、せぬママが「今日は水曜日（だったと思います？）で、お弁当を作って来たのよ。良かったらどうぞ？」と、にっこり笑って手渡していただいたのが、せぬママとの初めての出会いでした。今でもあの時の状況を鮮明に、覚えています。「無認可（保育園）は大変なのよ。ここは職員が良くやるから、偉いのよ。」この頃は、鳩の森も苗場も園長先生は、運営の資金繰りに御苦労があったのでしょう。あれから２７年。私が園長として、せぬママと同じ泉区で保育園に携わることが出来るとは、夢にも思っていませんでした。弥生台の駅から保育園までの道で出会う降園時の親子さんが、「さようなら」と、笑顔で挨拶をしてくれる姿に私はいつも感心しています。保育園が地域に根ざしている姿そのものです。そして、保育園へ入ると、先生方の笑顔と元気な声が、迎えてくれるのです。こんな当たり前な姿が、園の中でも外でも見られることは、保育園が健康で真っすぐ前に歩んでいることを物語っていると思います。

笑顔と、元気な声、皆で力を合わせて歌い、踊る。人間が誰でもが感じられる声を出して、身体を動かす事の心地良さを、心を一つに皆が頑張って一緒に作りあげていく舞台は、きっと鳩の「芸術」であり「文化」であると思います。

文化を絶やすことなく、これからも次の方々へ語り伝えていってください。

大きな翼を広げ、平和を願い明日を見て飛び続けていく「鳩の森愛の詩」であり続けていくことを願っています。

子どもOB会
鳩の森愛の詩保育園 職員

中野 孝惟

９８年度卒園の中野孝惟（なかのたかのぶ）です。園児として在園していた頃は「たかちゃん」って呼ばれていました。

そんな僕は今年から、鳩の森愛の詩保育園で保育士として働いています。

昔と変わらず子どもたちからは「たかちゃん」って呼ばれていること、卒園した時の写真が飾ってあること、せぬママはじめ昔お世話になった先生たちのもとで働くことに懐かしさと気恥ずかしさを感じながら、子どもと楽しく過ごしています。

今こうして鳩で働いているのも、鳩で過ごした保育園時代がとっても楽しかったことが理由です。

そして今実際、４才そら組の担任として働き始めて、改めて昔ここまで手をかけて育ててもらっていたことに感謝しています。

子どもたちはとっても元気！！晴れた日にはだいたいお散歩に行きます。このお散歩が正直なところ大変！！です。先頭に保育士1人、17人の子どもたち、一番後ろに保育士1人の

お祝いメッセージ

順番で歩きます。

この間、「近くのお家にこいのぼりが飾ってあるから見に行こう！！」 ということになりました。大人だったら歩いて10分もかからない距離です。子どもたちと一緒に歩くと行きだけで30分以上かかりました。

道端に咲いている花や、その周りにいる虫を見つけるたびに子どもたちは「あっ、いたいた！！」なんていって立ち止まるんです。

「たかちゃん！！あり見つけた！！」とか、花を取って「ママへのお土産にするの」とか。

そして子どもたちの宝物は僕に向かっても差し出されます。「(たかちゃん) あずかっといて」です。だから僕のズボンのポケットは、花やきれいな石、時にはダンゴ虫まで・・・子どもたちの宝物でいっぱいです。そんなことを繰り返しながら目的地に「着いたー、やったー！！とこちらが思っても、こいのぼりはチラリと見ただけで、さっきの続き、道端で見つけた虫を囲んでいました。

「こっちきた！！」・「歩いてるよ！！・「触っちゃだめだよ」と、いきいきと虫を観察している子どもたち。結局、目的地に着いた満足感に浸っていたのは僕だけのように感じました。

ただ、それが子どもなんだなと思いました。お散歩から保育園に帰ったら、心の底から「楽しかったー！」の子どもたちの顔・顔・顔！なのです。心が満たされた時の顔ってこんな顔なんだなと、子どもたちを見ていて気づきます。こういう顔になれることってとても素敵だな、と思います。そして、僕も鳩で過ごした子どもの頃、こんな顔をしていたのかな、って思いました。

僕がそうであったように子どもたちが楽しいって思えることをいっぱい経験して、その気持ちに寄り添っていける、共に感じられる保育士になっていきたいと思います。

民族歌舞団荒馬座

宮河伸行

荒馬も共に育ち合って

30周年コンサート、おめでとうございます。初めて鳩の森の皆さんとお会いしてから、「共育ち」の人の輪はどんどん広がり、保育園の名前も職員の皆さんの名前も覚えきれないほどになりました。そんな中でも毎年、職員の荒馬研修会を位置づけ、私たち荒馬座をお招き下さっていること、大変光栄でありがたいことです。

先日の荒馬研修会で一際目立つ若い荒馬がいました。聞けばその職員は「卒園児」ということ。なるほどと納得しました。「子育ては一時 (いっとき)」という皆さんの曲の歌詞をいつも思い出します。その「一時」に全身全霊をかけて、子どもを一人の人間に育て上げ、また職員も、園も、共に育っていったこの30年間の皆さんの歴史にただただ頭が下がるばかりです。私たちの「荒馬踊り」も鳩の森愛の詩の皆さんからいつも学ばされ、「共育ち」をしてきました。これからも未来に向かって共に育ちあっていきましょう！

作曲家

夏畑くるり

鳩30周年コンサートに寄せて

もう何曲書いたか、何年のおつきあいなのか、わからないくらい月日が経ちました。毎年の卒園式、今日のようなコンサート、お祝いのパーティーなどにお邪魔した回数も数知れません。

卒園の歌の詩をいただくたび、それを音にするたび、園にお邪魔するたび、みなさんの歌声を聴くたびに、心がさわやかに浄化され、温かい気持ちになり、そしていくつものことを学ばせていただくような気がします。

いつも「何だ？！」って思うのです。何だ？！ この元気いっぱいでチャーミングなこどもたちは。他では見たことないぞ。何だ？！ この真っすぐで情熱的で一途な保育士さんたちは。他では見たことないぞ。何だ？！ この率直で愛情いっぱいで笑顔と涙でグチャグチャのお母さんたちは！ そして踊りのフォーメーションに燃える、生き生き晴れ晴れのお父さんたちは……！

ずるずると日常を送っているナマケモノの私は、そこで学ぶのです。遠くの星も足下の石ころも、両方をしっかりと見て進んでいく賢さを。問題点と向き合って心が折れそうになっても、足を引きずってでも、前へと向かう強さを。きちんと生きること、笑顔を絶やさないことのすがすがしさを。

一応、卒園の歌を書くというお仕事をするために鳩のみなさんと関わっているはずなのですが、人生勉強をさせていただき、生きる勇気をもらっているのは私のほうだなと、いつも思います。

こどもの頃、はい、これはあなたのよ、と先生が特別に名前を書いて渡してくれたものは、何であれとても嬉しくて、くすぐったくて、大切だったことを思い出します。卒園の歌って、その最上級のものだろうなぁと思います。先生方が園児ひとりひとりの丸ごとを思いやって書く詩、それを大人たちが、どの子にも我が子のような想いをこめて歌うメロディ。

そういうピカピカの宝物を贈り続けてきた『鳩』だからこそ、今日のように、たくさんの歌を心を合わせて歌うことができるのですね。今日も、私を励ましてください〜！

本当におめでとうございます。

子どもOB会

竹田 翔

近所付き合いがなくなった。自治会の運動会や防災訓練に人が集まらないという声が新聞などによく見られるようになってきました。「家庭電話には怖くて電話をすることができなくなった。」「ＬＩＮＥで自分のことを何と言われているか気になってしょうがない。」といったこともよく耳にします。これらのメッセージの問題は地域の教育力の低下というものです。地域の教育力低下は鳩の森のような環境であればまず生じてこない言葉だと思います。私は鳩の森の先生だけではなく、鳩の森に通う多くの保護者の方々に支えらえて育ちました。いくつかのエピソードを書きたいと思います。

バザーの日、私の同級生の姉が家のカギをなくしてしまったことがありました。そのご家庭の方針はカギを1本しかつくらないという方針だったと思います。鳩の森の職員と保護者の方々、同級生たちで数時間探しましたが見つかりませんでした。「もしかしたら、お父さんはドアをやぶってしまうかもしれない。だけど、カギを落としたことを素直にあやまります。と言って同級生の姉は弥生台駅をでて帰路へつきました。

その後、カギをもっていた職員がいました。すると、私の同級生の母親が、「今なら間に合う。カギは違うかもしれないけど持っていこう。車だすよ。」といいました。弥生台から私の同級生の姉の家まで車でとばすと、家までもう少しというところで、肩を落として歩いているのを見つけました。「このカギ違う？」。「そうです。家のカギです。ありがとうございます」

このようなエピソードはたくさんあります。すべてのエピソードに共通することは、すべては子供のためにという気持ちを持って鳩の森に通う児童に接しているということです。鳩の森バザーでやきそばやお餅を売る経験は高校大学の学園祭で生きました。(大学時代は学園祭でクレープを売り2日間で50万円を売り上げました。) 横浜までゴジラＶＳモスラをおひさま組で見に行こうという計画をたてたことは、就職活動中の電車の乗り降りなどに生きました。また、小学校で困ったことがあっても鳩の森のお姉さんお兄さんに助けてもらったことも強く覚えています。

鳩の森の後輩にも私のような経験して大きく成長してください。鳩の森のますますのご発展を期待しております。

おおのキャンパス (一社) 大野ふるさと公社 理事長

水上信宏

鳩の森愛の詩保育園様の設立30周年、また30周年記念コンサートの開催誠におめでとうございます。

鳩の森愛の詩保育園様では、開園当初から大野木工をご導入いただき、今日まで幾度となく修理を重ね代々受け継ぎ、大切にお使いいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

鳩の森愛の詩保育園様の「子どもたちに本物のよさを伝えたい」という思いが、木の器・大野木工食器へと結びつき、お使いいただいてから30年もの間、大野木工食器をつうじて子どもたちに食の大切さ、木のぬくもりを伝えてこられたことに感激すると同時に、「本物」を届けることの責任も感じ、身の引き締る思いでおります。

子どもたちの食事風景の写真を拝見しますと、姿勢よく食べている様子や、器を大切に扱っている様子が伺え、食べることを大切にし、「食育」に力を入れて取組まれていることが伝わってきます。

独立した木の器を手にもち、木のぬくもりを感じながら1品ずつ味わう。木の器の特徴を最大限に活かし伝えることで、子どもたちの「心」の育みにつながればと、私たちも日々、先生方と同じ思いで木の器づくりに励んでおります。

これからも鳩の森愛の詩保育園様の「子どもたちに本物のよさを伝えたい」という思いにお答えできる「本物の木の器」を作り続けて参りますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

鳩の森愛の詩保育園様のご発展と、園児様のご成長を祈念申し上げまして、30周年のお祝いといたします。

大人OB会
社会福祉法人はとの会 理事

菅田昌宏

鳩の森愛の詩保育園３０周年おめでとうございます。

ＯＢである私が「鳩」のお世話になり始めたのは、もう２６年も前のことですが、当時はまだ無認可保育園でした。保育の中身に感動し共感したものの、補助金なしの保育料だけでどこまで運営していけるのか、当時はみんなが「鳩」の存続に向けて必死でした。

そんな中で、保育の質を落とさずに認可の道を進もうと決め、認可推進委員会が発足したわけですが、認可されるためには園舎建設当時の多額の借金を返済しなければならないとわかり、多くの家庭や「鳩」の関係者の方々からたくさんの出資金を提供して頂きました。自分が借金をしてまで出資してくれた方もいらっしゃいましたが、それは単に自分の子どもや家庭のためだけではなく、純粋に「鳩」の保育を存続させたいという強い思いを当時の多くの人たちが共有していたからでしょう。

その後、無事に認可園となり、せぬママの自宅から始まった無認可保育園が、存続の危機を乗り越えて、今は鳩、あすなろ、瀬谷、宮沢の４園と、新橋小といずみ野小のキッズクラブを抱えるまでに成長したことは、感慨無量です。

一本の小さな若木が雨風に耐えて生長し、その種から芽を出したたくさんの苗木が今また生長して森を形成し、やがて平和の象徴である多くの鳩がこの森に集い、憩い、「共育ち共育て」を世界に発信する、そんな時が来ることを私は密かに願っています。このコンサートがそのための大きな力になりますように……

お祝いメッセージ

社会福祉法人誠幸会 施設長
社会福祉法人はとの会 評議員

紺野 智秋

鳩の森愛の詩保育園。30 周年おめでとうございます。

私は、泉区の上飯田町に本部の拠点を持つ社会福祉法人誠幸会の施設長をしております。お陰様で来年20周年になります。我が法人は高齢者福祉である老人ホームから始まり、障がい者福祉として障害のある方々の雇用や住まいなども運営。平成24年4月に児童福祉である横浜保育室（認可外保育施設）をスタートしました。実はこの保育園の事業は、以前より構想はありましたが全く畑違いというか手探りの状態で計画を進めていました。しかし私が鳩の森あすなろ保育園に二人の娘を預けていたので、かずえさんに無理を承知でお願いをしましたが、快く引き受けていただきせぬママと一緒に保育園についての様々なことを、私と誠幸会の保育園事業の担当者に教えていただきました。そして念願だった保育園の事業がスタートできました。

そして余談ですが、「社会福祉法人　はとの会」と「社会福祉法人 誠幸会」の接点として今年度より私がはとの会の評議員に任命されました。これからも泉区の福祉を担う法人としてお互いに協力をしていきたいと思っております。

最後に、先にも述べたとおり私は、二人の娘をあすなろ保育園でお世話になり、今年上の子は小学校6年生、下の子は2年生になりました。その二人の娘は本日の和太鼓演奏をする「ゆいっ鼓」に所属しており、皆様に走楽（ラン）という演目を披露します。本日のコンサートが決まってから長い間「ゆいっ鼓」の子供たちは沢山練習をしてきて、時には涙も流したこともありました。本日その練習の成果がでるかどうか、心配な部分もありますが精一杯頑張ってほしいと思います。他の団体・グループの皆様もぜひ、悔いのない発表ができるように期待しております。

社会福祉法人ぴぐれっと 施設長
社会福祉法人はとの会 評議員

伊東 宏信

お祝いのコンサート開催、おめでとうございます。

鳩の森の保育の柱の“うた”によって、３０年の日々の積み重ね（ハーモニー）を感じて、今日を迎えた集大成（大合奏）、そして未来へ向けた勢い（クレッシェンド）を作り出すことができるのは、鳩の森の素晴らしさでしょう。

隣のぴぐれっとが、歌や太鼓ですくすくと笑顔で育つ子供たちだけではなく、保護者や職員の姿に、感化されていることは言うまでもありません。

鳩の森から巣立った大きくなった子供たちが、この森の守り人として帰ってくる、そんな素敵な場所であり続けて頂きたいと願っております。

子供や大人が育み合うそんな社会づくりを担う園として、これからのご発展をお祈りいたします。

大人OB会

小堀 咲子

「しあわせほいくえん」

鳩の森愛の詩保育園に入園したのはもう20年以上前、入園したての頃から、「鳩の関係は一生続くのよと、すでに３人目の子どもを鳩に通わせているお母さんに言われていました。その当時はピンとこなかったのですが、それを実感したのは、子どもが保育園を卒園し学童クラブも終了して、鳩の森を離れてからでした。わが子が無事希望の中学に入学して安堵していた矢先、今度は脳梗塞を起こして倒れてしまったときでした。何とか命はとりとめたものの意識不明の状態が続き、身体が不自由になってしまい、一切の気力を失っていた私たちを支えてくれたのが鳩の森の仲間でした。せぬママや鳩の職員の方、お母さんたち、クラスが違う人たちや顔見知り程度だった人たちまでが、それぞれの専門の分野で――　医療、学校、リハビリ、福祉サービス等で――私たちを助けてくれたのです。この助けがなければ、今の私たちはありません。それは今も続いています。うちの子どもが駅前でペダル付の車いすをこいでリハビリに励んでいると、さまざまな鳩の森関係者に出会います。「がんばってるね」「上手だね」などと声を掛けられることが本人には最大の喜びとなっています。

うちは、定期購入のお米を取りに行ったりなど、いまだにちょくちょく鳩の森を訪れます。万国旗のようにはためいていた真っ白な布おむつが干されている光景も今は無くなりました。セキュリティも厳しくなり、園の門扉はロックされています。それぞれのクラスを表す帽子をかぶっている子どもたちの姿も、昔にはなかったものです。鳩の森も「ずいぶん変わったな」と思います。何周年のときかは忘れましたが、汐見先生が「『昔はよかった』と言うのは止めよう」ということを言われました。そう、時代に合わせて変わらなければならないのですよね。これだけは譲れない、という鳩の森が大切にしてきたものを守りつつ、変わっていって初めてこの３０周年が迎えられたのだと思いますし、この先も続いて行くのだと思います。

変わっていないものもいっぱいあります。弥生台のあちこちで見かける鳩の森の子どもたちのお散歩。私の職場の近くにも保育園がいくつかできて、保育士と子どもたちがお散歩する姿をよく目にするようになりました。よく見かける鳩の森のお散歩の光景と何か違う、でも、すぐに分かりました。鳩の森なら歌を歌ったり楽しそうにお散歩しているのに、私が職場近くで見かける保育士と子どもたちはただ黙々と歩いているか、ひどいケースは、赤ちゃんだから言葉をかけても無駄だと思うのか、保育士同士でおしゃべりをしながら歩いているのです。鳩を知っている私はそんな光景をとても残念に思います。たくさんたくさん声をかけてもらって、たくさんたくさん抱っこされて、たくさんたくさん歌を歌ってきた鳩となんという違いだろうと。鳩の子どもたちはなんと恵まれていたのだろうと改めて思います。祖父母の住むマンション前の公園にも鳩の森の子どもたちがよくお散歩に来るそうです。保育士さんや子どもたちの声を聞くと元気になる、と高齢の祖父母もと喜んでいます。

鳩の森の歌や太鼓、園内にあふれる子どもたちの笑顔、保育士、若いお父さん・お母さんが大変なのに笑顔でエネルギッシュに働いているバザー、鳩の森が大切にしてきたものが守られていることを感じます。

鳩の森には「しあわせほいくえんの歌」という歌がありますが、ほんとうに、子どもにとってはもちろん、親にとっても祖父母にとっても、鳩の森は「しあわせほいくえん」だと思います。卒園して１５年経っても、いや、時が経てば経つほどその思いが強くなります。ひとりでも多くの子どもたちが、そして親が、「しあわせほいくえん」で人生や子育てのスタートをきることができるように、願っています。

３０周年のコンサート、楽しみにしています。子どもたちの荒馬踊りや太鼓、職員の方たちや若いお父さんお母さんの太鼓や合唱にかつての私たちの姿を重ね合わせて、あの慌ただしくも楽しかった日々にタイムスリップしたいと思います。

子どもOB会

谷口 純平

20年経っても変わらない仲間

私が保育園を卒園してから早いものでもう20年が経った。小学校に入学し、気づけば大学まで入学・卒業、いつの間にか社会人になった。会社での日々は学生時代のようにはいかない点多々あり、手探りながら進む毎日である。

振り返れば保育園で過ごした６年間は毎日が本当に楽しかった（もちろん最初の４年間くらいの記憶は皆無に等しいが）。谷口家は保育園の他の家族の例にもれず共働きだった。そして、０歳から保育園っ子だった私はその影響を最も色濃く受けた内の一人であると自負している。歌を歌うのは今でも大好き、外遊びをすること、絵を描いたり、色んなところに遊びに行ったりと本当に楽しかった。保育園で活発に過ごした６年間のおかげで元気にすくすくと成長することができたこと、これもひとえに両親をはじめ親戚そして、せぬママをはじめとした保育士の皆様の支えがあったからだと思う。私の人生の中でかけがいのないものを、たくさんたくさん得た保育園生活であったが、その中でも最も得難い宝物は今でも変わらず仲の良い同級生たちである。

ついこの間のゴールデンウィークも同級生６人でディズニーシーへ遊びに行き、その後で何人かが加わり夜もお酒を飲み交わした。会社でも大学の友達との間でも、保育園の友達と遊びに行くと言うと必ず驚かれる。学生時代に私が保育園でアルバイトをしていた時の友達?とも間違えられる。(笑) だからこそ、改めて何年たっても変わらない保育園の絆の深さ、素晴らしさを実感する。久しぶりに集まっても変わることなく話ができる仲間。

30歳も視野に入り、それぞれが人生の新しいステージに入り始めた仲間であるが、この先も変わらずにこの関係が続いていくんだと思う。

最後になりましたが、このような素晴らしい環境で学ばせてくれた両親、保育園の方々、友達のご家族の方々に改めて感謝申し上げます。そして、鳩の森30周年本当におめでとうございます。今後も150年、100年とずっと続いていく、そんな保育園であること心より祈っております。

子どもOB会

菅沼 拓泰

鳩の森３０周年おめでとうございます。

時が経つのは早いものですね。自分が本当に小さい時から、お世話になり、保育園を通し、水泳や跳び箱、芋掘り、焚き火、太鼓、バザーと多くの貴重な体験をしました。

毎日、保育園に着いたと同時に遊び始め、触り心地の良い木の食器に盛り付けてある美味しいバランスの取れた昼食をいただき、昼寝をし、遊び、健康的なおやつを食べ、そして、また遊び、迎えが来て、帰る。楽しく、充実した生活を送らせていただきました。時々、ふと、このときに「戻りたい」と思ってしまうことがあります。

今の自分を形成している健康な体や体力、好奇心といったものは、すべて鳩で基礎つくられたものだと思います。

当時の思い出で、今でも信じられないのは、冬でも半袖半ズボン、そして寒かったら「走ればいいじゃん」という考えを持っていたということです。

走ることで、体がすぐに熱くなるため、長袖長ズボンは持っていなかったのではないでしょうか。時々、当時のことを思い出し、寒いときに走ってみますが、保育園のときのようには残念ながらいきません。

おひさま組でしょうか。お茶碗を買いに、みんなで横浜SOGOに行ったと思います。お昼は、そこのレストランでお子様ランチを食べ、自由にフロアを見て歩き、一人ひとり好きな茶碗を選んだと思います。付き添っていただいた先生は２人か３人、保育園児は１０人以上だったと思います。自分は「へのへのもへじ」の茶碗を選びました。

デパートで茶碗を見ると、そのときの情景がよみがえってきます。ただ、付き添いの先生方は、どういう気持ちだった

お祝いメッセージ

だろうということも考えてみます。ハラハラしていたのかもしれません。ただ、当時、信頼していただいたことで、楽しい行事をいくつも経験できたのは生涯忘れることはないでしょう。

記憶に無いだけかもしれませんが、保育園で「ダメ」と言われたことがないような気がします。いつも思うままに行動していたのではないでしょうか。

思ったことを実行してみる。そういう歩みを今も、続けています。

子どもOB会

堀口千秋（旧姓米山）

鳩の森愛の詩保育園での思い出といえば、保育園の名前にもあるように歌が私の思い出の中にもあふれています。「ぞうれっしゃよ、はしれ」や「手のひらを太陽に」などは、今でも歌うことができます。たくさんの歌の中でも特に印象的なのは、やはり卒園の歌です。鳩の森では一人一人に歌が卒園の際に贈られます。私も「ちあきちゃんの歌」をもらいました。先生たちが作ってくれたその歌詞には、いつも温かく私のことを見守ってくれたことがよくわかります。自分の歌を口ずさむと、保育園での日々が思い出されます。自分の歌があるなんて、とても貴重なことでありがたいことです。私も家族も贈られた歌を大切に思っています。そのため自分の結婚式の際に、保育園の卒園式のビデオを流しました。出席してくれた保育園時代からの友人はそのビデオを見て、「歌詞を今でも覚えていたよ」と言い、喜んでくれました。

私は昨年子どもを出産し、育児の大変さを日々感じています。私は鳩の森で逆上がりや跳び箱などの運動や合唱、図画工作など本当にたくさんのことを経験することができました。子育てをしている中で、保育園であんなに多くのことを経験できる環境が与えられていたことは幸せなことだったなと思っています。そして自分の子どもにも同じように多くの経験をさせてあげたいと願っています。できるならば、子どもを鳩の森に入園させたいです。きっと、鳩の森を卒園した人は私と同じように思っている人が多いのではないでしょうか。

これからも鳩の森愛の詩保育園の益々の発展をお祈りしております。３０周年本当におめでとうございます。

大人OB会

首藤 祐己

鳩の森、３０周年おめでとうございます。

夫が東京への転職が決まり、引っ越しは、福井で元気いっぱい保育園に通っていた、いぶき・みさきの保育園探しから始めた。実家のある横浜と漠然とは決めていたものの、私の就職が決まらないうちは、認可保育園には申請することもできず、かつて熱海の無認可保育園全国集会でせぬママ・かずえさんにお会いしたご縁で、まず保育園を鳩の森に決め、鳩の近く家を決め、引っ越しが始まりました。

ちょうどグリーンハイムの５階に荷物を運び終えた夕方、かずえさんが花束を持って、「引っ越し終わった～？」ってのぞきに来てくれました。知らない土地で、思いがけず元気に声をかけられ、ホッとした想い出は今も鮮明に覚えています。

１９９４年の１０周年のコンサートの年でした。

それから４年後、みさきが卒園するころから一層深刻になった鳩の経営問題、廃園か認可か、当時の理事も、職員も父母も、とにかく話し合いを重ねに重ね、ひとりひとりの子どもたち、親たちと丁寧に、しかも全力で向き合う鳩の森の保育を、認可保育園にすることで未来につなげていこうと頑張りました。

今、鳩の森は４保育園、２キッズと広がり、組織が大きくなれば、その運営には一層大変さもあることでしょう。職員を育て、父母と理解を深め、子どもたちの成長を喜び合う日々をつくることは、並大抵の努力でできることではありません。

そして３０周年コンサート、本当にたくさんの皆さんの力が集まって、今日を迎えることができたこと、心からお祝いしたいと思います。

今、子どもたちの６人にひとりが貧困という社会状況のなかで、保育園、そしてはとの役割は益々大きくなっていると思います。せぬママはじめ、はとの先生方はちょっとした子どもたちの変化を見過ごさず、かけた一声にどんなにか救われた子どもたち、親たちがいたことでしょう。そういう鳩の森を、これからもずっと応援しています。

さらに、広島や沖縄を学童の子供たちが訪れ平和の尊さを学んだ取り組み、今それを脅かす戦争法制づくりが強引に進められているなかで、今日私たちは「ぞうれっしゃ」をうたい、鳩の森をさらに未来へとつなげていきましょう。

きょう　うたううた　みっつ・・・

ぞうれっしゃよはしれ

原作：小出 隆司
作詞：清水 則雄
作曲：藤村記一郎

ぼくたちの胸から
まっすぐに伸びたレールは
遥かな野山こえ ぞうたちのもとへとどく
冷たい冬が過ぎ 春を迎えたように
今こそ伝えよう あふれる喜びを
長い戦争を生き抜いたぞうたちに
ぞうたちの命を守った人たちに
　ぞうれっしゃよいそげ
　やみをさいて走れ
　ぞうれっしゃよいそげ
　空をかけて走れ

ぼくたちの胸から
あふれでた熱い思いが
一つに集まって 走らせたぞうれっしゃ
ちいさなぼくたちでも 心をひとつにすれば
夢だってかなうと 信じよう今こそ
夢を戦争で なくした人たちも
新しい時代を 生きていく人たちも
　ぞうれっしゃよいそげ
　やみをさいて走れ
　ぞうれっしゃよいそげ
　空をかけて走れ
　ぞうれっしゃよいそげ
　やみをさいて走れ
　ぞうれっしゃよいそげ
　空をかけて走れ

しあわせほいくえんのうた

作詞：せぬましずこ
作曲：高平つぐゆき

まっかなサルビアが
朝日にてらされて
もえていました
あなたも私も子どもを抱いて
いそぎ足のまま
「おはよう」を言いました
ガクあじさいの花が
夕暮れの風に
ゆれていました
あなたは子どもの手を引いて
にっこり微笑んで
「さよなら」を言いました

ここは保育園
一人ひとりの暮らしは　違うけど
みんなで力を合わせて
生きるところ
ここは保育園
一人ひとりの思いは　違っても
しあわせの糸を
ひとつにつむいで
まっすぐに進むところ

人々の温もりで
いっぱい愛されて
子どもたち一人ひとりが
輝いています

ここは保育園
みんなで　力を合わせて
子どものしあわせつくりだす
みんなで　知恵を寄せあって
しあわせをしあわせを
求め続けるところです

父ちゃん賛歌

作詞：せぬましずこ
作曲：高平つぐゆき

共働きは
父ちゃんや母ちゃんがはたらいていることだ
もちろん子どもは　保育園っ子
のんびりしたい時間だって　保育園では
バザーだ　コンサートだ
認可検討委員会だ、と
なんだかんだ
つぎから　つぎへと　集まりで
たいへんさ　疲れるさ
だけど　バザーでは
父ちゃんがいるから
もちつきが　できるのさ
父ちゃんがいるから
やきそばが　できるのさ
汗をながして
父ちゃんが　がんばったから
やきとり屋も　わたがし屋も
もりあがるのさ
行列ができるのさ

子どもが病気のとき
そりゃ困るさ
休みをつづけてとるなんて
ゆるされないもの
夫婦ゲンカもおきるさ
朝までもちこす日もあるさ
だけど
たすけあったり　たよりあったり
ささえあって生きてゆく
みんなで生きてる保育園は
オレたちの
わたしたちの
気持ちにピッタンコ

子育ては　いっとき
だいじな　いっとき
二人三脚　母ちゃんと
二人三脚　父ちゃんと
二人三脚　保育園
二人三脚　鳩の森
今をだいじに
生きてゆこう

鳩の森愛の詩 30年のあゆみ

1982年
開園を志した4人の保育者が出会う

1983年
3月 「新しい街に新しい保育園を！」建設委員会設立
6月 駅前でのバザー、コンサートを重ね、資金づくり

1984年
7月 せぬママ、瀬谷保育園退職
9月 無認可園としてスタート決定
園名を「鳩の森愛の詩保育園」と命名

1985年
3月 開園（瀬沼宅にて）
現・園舎の敷地確保の見通し立つ。
4月 園児21名、学童4名、職員7名
6月 父母の会、発足
8月 園舎建設開始

1986年
1月 お父さん新年会
後の忘年会、お父さん懇談会へ継承
3月 園舎完成パーティ。ありがとうコンサート♪
第一回卒園式（卒園児3名）
園児29名、職員9名
7月 プール完成
10月 地域合宿、始まる
第一回運動会開催
11月 生協まつりで「鳩の森まんじゅう」誕生
第一回みんなうたう会、鳩の森バンド結成
父母の保育参加スタート

1987年
3月 第二回卒園式（卒園児3名）卒園のうた歌われる
園児58名、学童10名、職員16名
学童クラブ、発足
6月 村上弦一郎氏ピアノコンサート開催
グランドピアノ、クレーン車で2階へ
7月 病後児保育検討委員会設置
10月「保育参加」始まる

1988年
3月 第三回卒園式（卒園児4名）
園児65名、学童16名、職員18名
6月 第1回バレーボール大会&父親懇親会
（後にビーチバレー大会となる）
12月 サンタクロース、園にやってくる

1989年
1月 第一回「鳩の森セミナー」
（講師／汐見稔幸・中川李枝子）
3月 第四回卒園式（卒園児7名）
園児83名、学童15名、職員19名
8月 わらび座研修へ父母参加
8月 5周年記念コンサート（県立青少年センター）
鳩の森愛の詩保育園記念合唱団発足
10月 神奈川のうたごえ協議会「合唱発表会」に記念合唱団参加

1990年
1月 第二回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
「今、乳幼児期の子育てに大切なこと」
父母によるシンポジウム
1月 学童クラブ主催「どんと焼き」始まる
2月 「子どもの夢コンサート」に記念合唱団が出演
3月 第五回卒園式（卒園児11名）
園児99名、学童17名、職員23名
3月 5周年記念誌出版
4月 実行委員会、父母一人一役方式に
10月 市の補助金削減反対活動。陳情、ビラ配布、
市役所前で宣伝カーから訴える

1991年
1月 第三回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
「子育ての中で大切にしていること」
3月 第六回卒園式（卒園児23名）
園児93名、学童12名、職員23名
4月 「認可検討委員会・開園10周年記念行実行委員会」発足
5月 泉区公会堂こけら落としコンサート　記念合唱団参加
7月 「父ちゃん賛歌」、「私たちのうた」、誕生

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

1992年

1月　第四回「鳩の森セミナー」／父母による寸劇
　「子どもの権利条約ってなあに」（講師／汐見 稔幸）
3月　第七回卒園式（卒園児19名）
　園児96名、学童17名、職員25名
4月　保育体制委員会 設置
8月　会沢芽美さんコンサート
9月　神奈川のうたごえ協議会「合唱発表会」参加
10月 保育団体連絡会
　北欧三国、福祉・保育・文化の旅、参加
10月 日本のうたごえ祭典参加
　幼児クラス「ぞうれっしゃよはしれ」を歌う

1993年

1月　第五回「鳩の森セミナー」（講師／汐見 稔幸）
　「それが大事!!」／父母＋小倉先生シンポジウム
　—これからの時代に生きる子どもたちに今、必要なこと—
3月　第八回卒園式（卒園児14名）
　園児91名、学童20名、職員27名
4月　開園10周年事業の内容が具体化
12月「10周年記念CD」制作のためのレッスン開始

1994年

1月　第六回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
　「理想と現実…子育てのとまどい」
　　父母によるシンポジウム
3月　「おたより」100号、発行
　第九回卒園式（卒園児14名）
　園児92名、学童29名、職員28名
4月　環境整備委員会 設置
7月　「10周年記念CD」録音
9月　「10周年記念CD
　〈子どもたちの成長をうたにのせて〉」完成

1995年

1月　第七回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
　「見つめ直そう親のあり方わが子の育ち
　　…わが子の健全な発育を望んで」
3月　第十回卒園式（卒園児15名）
　園児95名、学童27名、職員30名
　「ありがとう鳩の森♪」
　（作曲／高平つぐゆき　作詞／95年卒園児父母）
6月　おひさま組、老人保健施設「鳳荘」訪問
7月　父母の会臨時総会　卒園の歌賛助金を設立
8月　「10周年記念コンサート」開催（神奈川県立音楽堂）

1996年

1月　第八回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
　「寄り添って子育て」
3月　第十一回卒園式（卒園児13名）
　園児82名、学童24名、職員28名
3月　父母の会活動紹介パンフレット「はじめの一歩」登場
4月　恒例鳩の森お花見を「お花見レストラン」に
5月　新入父母への「オリエンテーション」スタート
8月　記念合唱団・高平おじさんCD製作参加
8月　高平つぐゆき氏「30周年記念CD」に記念合唱団参加
　「鳩の森合宿」実行委員会により実施
10月「おかあさんリフレッシュデー」スタート
11月 生協バザーに参加
　「はとのもりまんじゅう」4471個完売
12月 お父さん有志　年末園内ワックスがけ

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

1997年

1月　第九回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
「かしこさってなあに」
1月　役員有志主催スキーツアー（富士天神山スキー場）
3月　第十二回卒園式（卒園児13名）
園児85名、学童27名、職員28名
5月　父母の会製作「オリエンテーションビデオ」完成・上映
6月　記念合唱団「横浜市母親大会」オープニング演奏
7月　O-157流行、クラスレストラン自粛
代わりに、かかし座／影絵、劇団とんと／人形劇上演
7月　「おたより」神奈川県機関紙コンクールにて最優秀賞受賞
9月　恒例のビーチバレー大会、最後の開催
10月 対市交渉向け署名取り組み、史上最高4000筆

1998年

1月　せぬパパ、急逝
1月　役員有志主催　荒馬座「ひらけやみのれ花太鼓」上演
3月　第十三回卒園式（卒園児16名）
園児90名、学童28名、職員30名
5月　第十回「鳩の森セミナー」（講師／汐見稔幸）
「ほめない子育て」
7月　荒馬座合宿講習参加（長野県八千穂村）
9月　厨房リニューアル完成
11月 日本のうたごえ祭典参加「ぞうれっしゃよはしれ」を歌う
11月 15周年記念プレ企画　荒馬座「風のまつり」上演
新橋町「あってまつり」初参加
12月 学童クラブ父母の会「クリスマスマジックショー」

1999年

1月　認可をすすめる会、発足
3月　第十四回卒園式（卒園児16名）
園児105名、学童33名、職員32名
4月　学童クラブ主催「地引き網」スタート
7月　第十一回「鳩の森セミナー」（講師／汐見 稔幸）
「先輩に聞く…乳幼児期の子育て」父母のシンポジウム
7月　荒馬座合宿講習参加（長野県八千穂村）
8月　1日　認可園スタートセレモニー
（園庭で鳩を飛ばしてお祝い！）
8月　「認可園」としてスタート／「認可を祝う会」開催
9月　「15周年記念コンサート」開催（神奈川県立音楽堂）
11月 和太鼓なかま結、ゆいっ鼓 発足

2000年

3月　第十五回卒園式（卒園児16名）
園児100名、学童35名、職員36名
9月　神奈川のうたごえ協議会「合唱発表会」に参加
記念合唱団1位受賞。
子どもたち「元気ですね賞」受賞
10月 保育情勢学習会参加

2001年

3月　第十六回卒園式（卒園児9名）
園児100名、学童38名、職員36名
6月　第十二回「鳩の森セミナー」
「いい保育ってなーに」（講師／二宮 厚美）
9月　「鳩の森愛の詩あすなろ保育園」起工式

2002年

1月　「あすなろへ贈ろう」桜の木寄贈運動
3月　第十七回卒園式（卒園児19名）
園児100名、学童40名、職員38名
4月　20周年記念誌出版委員会発足
4月　「鳩の森愛の詩あすなろ保育園」開園
8月　「18周年記念コンサート」開催
（神奈川県立音楽堂）

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

2003年

1月　第十三回「鳩の森セミナー」（講師／汐見 稔幸）
「どろだんごは永遠に不滅」
3月　第十八回卒園式（卒園児19名）
園児100名、学童40名、職員39名
第一回 あすなろ保育園卒園式（卒園児12名）
7月　第十四回「鳩の森セミナー」（講師／汐見 稔幸）
「子育ての昔、今、未来」
8月　和太鼓なかま結、ゆいっ鼓　ファーストＬＩＶＥ「出会い」
※600人の泉公会堂が満席に。
12月 おひさま組父母「みそづくり会」

2004年

3月　第十九回卒園式（卒園児16名）
3月　第二回あすなろ保育園卒園式（卒園児12名）
4月　はと・あすなろ・放課後児童クラブ
各父母の会会長出席の三者連絡会開始
7月　第十五回「鳩の森セミナー」（講師／汐見 稔幸）
「子育て、この先どうなっちゃうの?!」
9月　放課後児童育成事業
いずみ野小学校キッズクラブ開所

2005年

3月　第二十回卒園式（卒園児23名）
3月　第三回あすなろ保育園卒園式（卒園児14名）
20周年記念誌「共育て共育ち　鳩の森愛の詩保育園」発刊
初版7000部（小学館）
3月　20周年お祝いの会・開催
4月　「鳩の森愛の詩 瀬谷保育園」開園
9月　鳩の森愛の詩20周年記念コンサート
「大きくなるってすてきなこと」開催（鎌倉芸術館）

2006年

3月　カイ（父親）りぼん（母親）の間に4匹の赤ちゃん犬が生まれた
3月　第二十一回卒園式（卒園児22名）
3月　第四回あすなろ保育園卒園式（卒園児11名）
3月　第一回瀬谷保育園卒園式（卒園児12名）
4月　鳩の森愛の詩あすなろ保育園
二歳児室増築完成
定員が72名から87名になる
4月　新橋小学校キッズクラブ開所
6月　新橋小学校キッズクラブ
オープニング記念親子コンサート
日フィル金管五重奏（新橋小学校体育館）
9月　泉区制20周年記念保育大会で
はと・あすなろのおひさま組と職員で荒馬踊りを披露
（泉公会堂）
9月　新橋連合自治会「敬老のつどい」で荒馬踊りを披露
（新橋小学校体育館）
12月 横浜市法外扶助費が18・19年度の2年間に渡り大幅に削減
される旨行政指導を受ける

2007年

2月　鳩の森愛の詩瀬谷保育園、第三者評価受審
3月　鳩の森愛の詩あすなろ保育園、第三者評価受審
3月　第二十二回卒園式（卒園児23名）
3月　第五回あすなろ保育園卒園式（卒園児12名）
3月　第二回瀬谷保育園卒園式（卒園児20名）
4月　はと・あすなろ・せや
３園合同遠足（大池公園）
6月　第二十一回記念講演「鳩の森セミナー」
（講師／中川李枝子・汐見稔幸）
「子どもはみんな問題児 Part II」（瀬谷公会堂）

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

2007年

8月 横浜市教育委員会主催「食教育シンポジウム2007」に初めて幼児教育の分野から鳩の森が「食教育について」実践報告（関内ホール）

9月 鳩の森愛の詩ふるさとの森コンサート（泉公会堂）

9月 福祉サービス第三者評価シンポジウム「気づきで変わる！？福祉サービス」にパネラーとして実践を発表

11月 職員学習会（講師／池田 祥太郎）

12月 横浜市内唯一「兄弟入所を優先する」泉区独自の入所制度を2008年度より廃止する旨、泉区より説明がある

2008年

1月 荒馬座公演「大地のまつり 水のうた」（瀬谷公会堂）

2月 食育コンテスト「いただきます ごちそうさま」に実践を提出、優秀賞を受賞

2月 職員学習会（講師／池田 祥太郎）

3月 月刊「クーヨン」3月号に「ちいさな子どもの感性は『本物』をちゃんと見抜きます」のタイトルで、鳩の森の木の器で頂いている給食について取材を受け掲載される

3月 日本テレビ「真相報道 バンキシャ！」に国産の食材を使った給食が紹介される

3月 第二十三回卒園式（卒園児22名）

3月 第六回あすなろ保育園卒園式（卒園児14名）

3月 第三回瀬谷保育園卒園式（卒園児19名）

4月 はと・あすなろ・せや 3園合同遠足（大池公園）

7月 NHK教育「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑～」に男性保育士として、新人職員みっくんの2週間が紹介される

11月 鳩の森愛の詩ふるさとのもりコンサート'08「大きくなるってすてきなこと」開催（鎌倉芸術館）

11月 日本のうたごえ祭典へ 3園おひさま組が荒馬おどりで出演

12月 第二十二回「鳩の森セミナー」（講師／中川 李枝子、汐見 稔幸、木村 明子）「こどもはみんな問題児partⅢ」in泉公会堂

2009年

2月 せやセミナー （講師／中川 李枝子、汐見 稔幸）

3月 第二十四回はと卒園式（卒園児20名）

3月 第七回あすなろ卒園式（卒園児19名）

3月 第四回せや卒園式（卒園児16名）

4月 はと・あすなろ・せや3園合同遠足（大池公園）

7月 第二十三回「鳩の森セミナー」（講師／中川 李枝子、汐見 稔幸、木村 明子）「こどもはみんな問題児partⅣ」in泉公会堂

9月 25周年記念コンサートプレ企画 荒馬座公演 in瀬谷公会堂

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

2010年

1月　神奈川のうたごえ祭典へ
　　３園おひさま組が荒馬おどりで出演
3月　第二十五回はと卒園式（卒園児24名）
3月　第八回あすなろ卒園式（卒園児19名）
3月　第五回せや卒園式（卒園児20名）
4月　はと・あすなろ・せや3園合同遠足（大池公園）
7月　25周年記念お祝いの会 300名参加
　　inベイシェラトンホテル
7月　第二十四回「鳩の森セミナー」
　　（講師 / 汐見 稔幸）
　　「こどもはみんな問題児partⅤ」inあすなろ保育園
10月「25周年コンサート」開催
　　（神奈川県立音楽堂）
12月 第一回「はとのもり文化村フェスティバル」
　　（泉公会堂）

2011年

3月　第二十六回はと卒園式（卒園児21名）
3月　第九回あすなろ卒園式（卒園児18名）
3月　第六回せや卒園式（卒園児20名）
3月　鳩の森愛の詩憲章 生まれる。
4月　せや保育園 仮園舎へお引越し
4月　荒馬座公演（瀬谷公会堂）
6月　保育園裏のせせらぎで、毎週水曜日に「ホタルの見守り隊」として
　　職員が交代で参加し、地域の方と交流をはかる。
7月　瀬谷養護学校、旭高校の教員の初任者研修を受け入れる。
7月　新橋小学校の先生の一日保育体験を受け入れる。
8月　合研（群馬）に職員と父母の代表が参加。
9月　「おじいちゃんおばあちゃん、保育参加ようこそ週間」を設ける。
10月 秋のこどもまつり。6,000個の「鳩の森まんじゅう」をつくる。
12月 新橋小学校作品展に幼児組が展示参加。

2012年

1月　第二十五回「鳩の森セミナー」
　　（講師／汐見 稔幸・小西 貴士）
　　「子どもが自然の中で育っていくということ」inあすなろ保育園
1月　岡津中、中和田中、いずみ野中、原中、瀬谷中の職業体験、職業
　　インタビューを受け入れる。
1月　TBS「はなまるマーケット」で、毎日ぬか漬けを食べていること
　　とが紹介される
3月　第二十七回はと卒園式（卒園児17名）
3月　第十回あすなろ卒園式（卒園児15名）
3月　第七回せや卒園式（卒園児20名）
4月　社会福祉法人 はとの会 理事長に 汐見 稔幸 就任
4月　鳩の森愛の詩宮沢保育園開園
5月　せや保育園 新園舎落成式

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

2012年

5月　はと「おたより」300号記念号発行
6月　新渡戸短期大学で「保育園での食育活動の取り組み」を発表する。
7月　新橋小学校の先生の一日保育体験を受け入れる。
8月　合研（神戸）に職員と父母の代表が参加。
「子どもの生活と集団づくり」の分科会で提案発表をする。
10月「おじいちゃんおばあちゃん、保育参加ようこそ週間」
11月「保育所の食育を考える研修会（横浜市主催）」で「食べることは命を育むこと」のテーマで発表。
11月 泉区ふれあいまつりにおひさまぐみが荒馬踊りで参加する。
12月 泉が丘中学校３年生、８名保育体験で来園。

2013年

1月　岡津中、中和田中、いずみ野中、原中、瀬谷中の職業体験、職業インタビューを受け入れる。
1月　新橋地区幼保小職員交流会
2月　新橋小学校５年生とおひさま組が交流
3月　第二十八回はと卒園式（卒園児22名）
3月　第十一回あすなろ卒園式（卒園児20名）
3月　第八回せや卒園式（卒園児22名）
3月　第一回みやざわ卒園式（卒園児14名）
4月　あすなろ保育園分園「ちいさなおうち」開園
6月　キープ自然学校にて法人学習会を行う。
6月　養護学校から作業実習生１名を受け入れる。
7月　第二十七回「鳩の森セミナー」
（講師／汐見 稔幸）
「働きながらの子育て」in瀬谷保育園
7月　荒馬座公演
7月　福島の「おかやま保育園」へおひさまぐみが作った七夕の吹き流しを贈った。お返事のお手紙が届き、交流が始まる。
7月　多機能型小規模事業所「だんだん」とおひさま組が交流をする。
7月　新橋小学校の先生の一日保育体験を受け入れる。
7月　横浜市の幼保小教育連携研修会で幼保小推進地区として泉区新橋地区の実践報告をする。
8月　合研（神奈川）で「障がいを持つ子どもの保育」分科会で提案発表をする。
父母の会も要員として、会場案内や駐車場係を担う。
10月「おじいちゃんおばあちゃん、保育参加ようこそ週間」
12月 第一回せぬママ杯争奪 フットサル大会
12月 中和田中学校職業体験６名を受け入れる。
12月 多機能型小規模事業所「だんだん」とそら組が交流をする。

2014年

1月　岡津中、中和田中、いずみ野中、原中、瀬谷中の職業体験、職業インタビューを受け入れる。
1月　NHK「すくすく子育て」『いやいや期の子育て』について取材を受ける。

鳩の森愛の詩30年のあゆみ

2014年

1月　クレヨンハウス発行月刊「クーヨン」1月号
　　「子どもにこそ本物を。はじめての器」で取材を受ける。
2月　新橋小学校の養護教諭・栄養士の先生がおひさまぐみで出張授業をしてくださる。
2月　いずみ野中学校「職業講話」で話をする。
3月　第二十九回はと卒園式（卒園児24名）
3月　第十二回あすなろ卒園式（卒園児17名）
3月　第九回せや卒園式（卒園児20名）

3月　第二回みやざわ卒園式（卒園児20名）
3月　「さよならトーテムポール」の集まり（はとの園庭）
6月　キープ自然学校にて法人学習会を行う。
6月　第二十八回「鳩の森セミナー」
　　（講師／汐見 稔幸）
　　「子どもが子どもらしく育つための環境」in瀬谷保育園
6月　第三回「はとのもり文化村フェスティバル」（泉公会堂）
7月　父母の会主催　夏まつり開催（弥生台駅前公園）
7月　「卒園した小学生のお兄ちゃんお姉ちゃん、保育参加ようこそ週間」
7月　新橋小学校の先生の一日保育体験を受け入れる。
7月　多機能型小規模事業所「だんだん」とおひさま組が交流をする。
8月　合研（福岡）に職員と父母の代表が参加。
　　「子どもの生活と音楽」の分科会で提案発表をする。
8月　保育雑誌「ピコロ」から父母の会活動について取材を受ける
8月　父母の会主催　地引網開催（茅ヶ崎海岸）
9月　鳩の森30周年大同窓会開催（JA横浜みなみ総合センター）
10月 特別支援校作業実習生4名を受け入れる
10月 旭高校「職業講話」で話をする
11月 泉区9条の会10周年記念式典におひさま組有志が荒馬踊りで参加
11月 日本のうたごえみやぎ祭典
　　コンクール形式による合唱発表会へ職員合唱団参加
　　「ゆうき」「しあわせほいくえんのうた」をうたう
12月 第二回せぬママ杯争奪　フットサル大会
12月 多機能型小規模事業所「だんだん」とそら組が交流をする。

2015年

1月　岡津中、泉が丘中、いずみ野中、原中、瀬谷中の職業体験を受け入れる。
2月　キープ自然学校にて法人学習会を行う。
3月　第三十回はと卒園式（卒園児20名）
3月　第十三回あすなろ卒園式（卒園児21名）
3月　第十回せや卒園式（卒園児22名）
3月　第三回みやざわ卒園式（卒園児20名）
4月　法人学習会開催「保育の原点」
5月　法人学習会開催「子どもの困り感に寄りそう」
5月　春のこどもまつり
6月　法人学習会開催「健康な骨格をつくること」
6月　法人学習会開催「個人情報保護法について」「子どもの権利条約について」
7月　30周年記念コンサート（神奈川県民ホール）

スタッフ紹介

コンサート実行委員会

実行委員長

川原 孝則

副実行委員長

瀬沼 静子

事務局

鈴木 求紀
阿部 一代
大島 啓子
小林 靖子
紺野 智秋
鈴鹿 豊明
首藤 祐己
須藤 健二
藤木 尚
本間 正貢
稲勝 路人
江原 智史
林 和恵

企画

中澤 真佐人
阿部 泰博
塩田 恵子
島田 美香代
三浦 佳奈
池田 佳代子
近江屋 希
小甲 裕貴
小林 茂美
山田 あき

渉外

山崎 仁
池田 友紀
野々口 晃典
山本 賢司
井出 渚
岩本 美好
瀬沼 幹太
藤岡 実里
松本 理子
村田 千明
山崎 晃司
白石 清美

組織

高橋 朋憲
伊藤 理恵
大上 陽子
薦田 美智子
福添 右佑
長窪 幸子
中原 有子
林 望
馬橋 昌代

コンサート全体進行

近江屋 希
中野 孝惟

スタッフ

演出

三浦 恒夫

演出助手

藤木 尚
並木 辰文
井上 哲也

照明

前田照明

音響

ふおるく

ビデオ・写真

すみれ映像舎

プログラムデザイン：**ボブケイデザイン**／ BOB-K.design(www.bob-k.com)

#出演者

荒馬踊り

鳩の森愛の詩保育園

つばめぐみ
こばやし よしさと
すがの さきな
たかはし そら
にし いつき
ひらい こうせい
まつもと ももか
むとう なつほ
やまざき かなと
しみず れんか
のろ りな
おとぐろ つきな
かわぐち さとね
たかはし かなた
やぎ そう
やすかわ けんぞう
こんの しん
なかじま ゆずは

そらぐみ
とみなが なつき
やまぐち りゅうせい
あべ わたる
えばら ゆうき
ふくぞえ なつき
ふなだ ゆづき
せんざき ゆいと
いわの しゅうじ
かんばやし りんか
いしい あつと
いとう るい
かねこ ちさき
うんの ひなこ
すはま ひさき
よしだ みいや
すがさき ゆうた
ふかざわ りんたろう

おひさまぐみ
うつみ まい
かんお みづき
しん みこう
たかはし かの
とくなが ゆうき
なかむら そらと
はやし さくら
みうら るい
よねくら そうせい
わたなべ かなた
ながい そう
さいとう みはる
おおたか いちか
しまだ こうき
なみき あずみ
きたもり あやか
つだ きょうた
みや りょうすけ
ながの りっか
はしづめ かえで

一年生
あらい りょうと
いけだ ひろき
いしだ ゆうと
かわはら なおみ
こばやし ほのか
ふせ きみ
ゆだ りゅうと
よねくら たいせい
いとう もにか
ひらい みはる
ゆげ えいた
ふじおか たつき
はしもと けいと
いしい はると
うきしま はるか
たかはし あいゆ
ながぞえ しおり
だいらく かほ

鳩の森愛の詩 あすなろ保育園

つばめぐみ
すずき ちはる
みやた あおい
うめざわ みづき
ささお まひろ
すずき さわと
たたい みちと
たちやま まなは
はまむら そうめい
いのうえ さな
わたなべ りんこ
よしはら さとの
まるやま しょうへい
にしもと はるき
こうの あいり
のじま あかり
やまもと ゆう
たかはし えな
たかはし みお
かげさわ さき
ふじの みか

そらぐみ
いとう しょうま
おか けいすけ
ふじき あや
いいづか こはる
すずき じゅんべい
とくやま ようた
たかはし かいと
おかもと こころ
かわむら りょうせい
さとう まこと
なかざわ あさと
はら えいすけ
いそべ ゆりあ
さとう りょうた
こざわ ふく
たけむら ひなた
あそう ゆうり
おのでら じょい
みながわ みずき
にった ななみ

おひさまぐみ
あめみや まゆ
いけだ そらのすけ
さかきえだ しゅり
しおだ りく
なかたに あんび
やまざわ まほ
わたなべ こうえい
ひがしで かんな
たなか あいり
まつもと ことね
まつもと あやね
いとう ひなた
わたなべ まなと
かじやま ようだい
まつざき みかな
いしづか りおん
しだ あいは

一年生
あいがみ らら
おおかわ かのん
おくの ひかる
かばや ひろみ
たかはし あかり
たかはし ちより
たたい ここな
ちば ぶんた
ながさわ しおり
なかじま ゆい
ながの のりか
なかもり ひろみ
にしもと ゆうき
はたの りょうた
たかぎ あいり
はしだ ゆづき
いがらし りゅうた
やまじ ゆうと
よしはら しゅうと
くわばら こうし
こざわ かなめ

鳩の森愛の詩 瀬谷保育園

つばめぐみ
いしわた たいよう
つるだ あおい
ののぐち ひかる
みやぬま ゆい
むらいし はるき
むらかみ みそら
かじわら さき
きよみや ふうや
すえよし れな
つるた ゆき
なぐら あゆみ
いしかわ みま
いのうえ さき
せき あいな
かとう はつゆき
こまつ ゆな
ごとう りり
まえば ゆあ
なかはま ももあ

そらぐみ
いしだ みなも
おおかわ きさ
むらい さねつゆ
たかはし りゅうや
いけなが ひな
おざわ れい
かん ゆきな
こもだ よりまさ
さいとう はると
なかじま けんた
ふじしろ ひな
やまかわ しょうた
いしかわ みと
しらいし しょうじゅん
いがらし りお
すずき ひろと
ますだ なおき
まつずみ さいと
まつずみ やすひと
よしおか こたろう

おひさまぐみ
おおかみ ほのか
おおかわ なつ
おおかわ ひまり
おおしま りん
ふかさわ まひろ
あべ しゅんや
うえはら ひろと
あおき りおん
あべ みくる
いのうえ はる
さいとう ひろむ
すずき はると
たかやま いっき
よしだ あやな
あきもと りな
きよみや いおり
たなか れんたろう
なぐら りょうま
よご たくみ
きむら ゆうた

一年生
いしわた ひろむ
ともやま ちなつ
はたけやま こう
まえかわ あかね
まつなが たくみ
やまもと こう

職員

馬
林　望
村松 直人
小甲 裕貴
金岡 昂志
稲勝 路人
山﨑 晃司
大瀬戸 啓
稲場 拓哉
上野 慎太郎
米原 英佑
宍戸 秀彰

跳人
小林 茂美
稲勝 真紀
岡本　薫
井出　渚
岩本 美好
宇野 麻里恵
田中 るい
村田 千明
佐藤 麻衣
和田 みずき

ゆいっ鼓

しの笛
三橋 美奈子
池田 佳代子
近江屋　希
瀬沼 真知子
渡邊 千恵子
中原 有子
河田 佐樹子
安西 紀子
湯田 麻美
永井 佳織
藤岡 実里

ちゃっぱ
山田 あき
落合 里江

太鼓
瀬沼 幹太

のぼり
深井 由紀
阿部 千里
樋口 悠
馬橋 昌代
石原 亜津沙
桜木 結香
石井 友理

職員合唱団

ソプラノ
石渡 南美
近江屋 希
富永 淳子
村田 千明
湯田 麻美
阿部 千里
岩本 美好
梅澤 友美
落合 里江
中野 久恵
樋口　悠
眞下 知子
三橋 美奈子
渡辺 千恵子
相澤 祐子
利元 友理加
池田 佳代子
佐藤 麻衣
柴田　愛
芝本　葵
田崎 あきさ
長窪 幸子
松本 理子
阿部 よし子
黒滝 めぐみ
鈴木　優
平松 恵美
牧山 恵美
宇野 麻里恵

アルト
石原 亜津沙
井出　渚
小林 茉央
土田 莉菜
永井 佳織
藤岡 実里
馬橋 昌代
横田 和香
二神 結衣
山田 あき
石井 友理
中澤 恵理
中島 真由美
西川 友梨子
野坂 あゆ美
村上 礼衣
小林 茂美
永井 順子
矢澤　圭
山本 純子

テノール
上野 慎太郎
小甲 裕貴
林　望
江原 智史
宍戸 秀彰
稲勝 路人
大瀬戸　啓
瀬沼 幹太

バス
中野 孝惟
米原 英佑
村松 直人
山﨑 晃司

指揮
山本 ひで子

ピアノ
山下　恵

ゆいっ鼓OB・OG

足立 永遠
池澤 寧音
柿沼 友希
北森 野乃花
村元 柚月
山本 貫太
池田 和登
大久保 晧平
鈴鹿 宗一郎
鈴鹿 龍之介
中野 孝惟

締め太鼓
玉田 菅雄

おやじのロックソーラン

鳩の森愛の詩保育園「ONE・破・闘」
米倉 慎一郎
宇津味 勇太
大髙 昭紘
神尾 淳
北森 豊
齋藤 憲弥
島田 光博
髙橋 英将
並木 辰文
林　望
渡邊 真悟
石井 浩太郎
伊藤 文彦
江原 智史
洲濱 正紀
富永 貴之
福添 右祐
山口 直恭
乙黒 義彦
小林 信之介
菅野 洋
西　由介
平井 博昭
安川 佳宏
山崎　仁
藤岡 賢吾
三浦　伸
稲勝 路人
平松 政
新井 宗穂
浮嶋 武士
川原 孝則
久保 光博
小林 嘉博
杉山 佳久
林　正博
松原 暢之
弓削 雄一
湯田 耕平
上野 慎太郎
小甲 裕貴
中野 孝惟
米原 英佑
高橋 祐二
西本 裕一
濱村 佳樹
藤野 元喜
丸山 文隆
山本 賢司
吉原 寛人
桑原 洋一
小原　武
瀬沼 幹太
數寄 洋平
赤羽 博明
五十嵐 裕一
伊藤 寿史
奥野 健一
紺野 智秋
高橋 英治
幡野 友孝
山路 歩
金岡 昂志
高柳 裕太

鳩の森愛の詩瀬谷保育園「セイヤーズ」
高山 慎一郎
青木 善昭
阿部 泰博
井上 哲也
大川 健太郎
木村 一貴
齊藤 公男
鈴木 崇之
名倉 敦史
吉田 寛明
石田 正晴
小澤 秀則
薦田 淳二
斎藤 信二
中島　誠
野々口 晃典
岡崎 健司
河村 一孝
宍戸 秀彰
村松 直人
山﨑 晃司
酒井 茂樹

鳩の森愛の詩あすなろ保育園「アラリオン」
松元 洋平
雨宮 秀行
池田 裕介
松崎 治幸
渡辺 英俊
飯塚 正宏
岡　忍
岡本　洋
佐藤　博
髙橋 朋憲
中澤 真佐人
藤木　尚
皆川 昌輝
河野　勲
笹尾 洋介
鈴木 求紀

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」合唱団

鳩の森愛の詩保育園
つばめぐみ
そらぐみ
おひさまぐみ
一年生

鳩の森愛の詩 あすなろ保育園
つばめぐみ
そらぐみ
おひさまぐみ
一年生

鳩の森愛の詩 瀬谷保育園
つばめぐみ
そらぐみ
おひさまぐみ
一年生

児童
赤羽 菜月
赤羽 葉月
新井 颯太
新井 涼斗
池田　楓
池田 寛絆
石井 陽人
石井 優人
石田 優斗
伊藤 萌日楓
浮嶋 陽夏
宇津味 那菜
大島　渉
小田橋 美和
川原 直己
川原 梨々夏
河村 思依路
河村 至夕宇
久保 愛華
久保 直輝
河野 美憂
小澤　要
小林 彩桜葉
小林 加恋
小林 穂香
薦田 千代
齋藤 竹琉
斎藤 成美
斉藤 柚凪
坂本 涼風
塩田 葉南
渋谷 安美
島田 葵
新 偉里澄
菅野 結衣
鈴木 直汰
洲濱 菜月
瀬沼 芽ぶき
大楽 樺穂
髙橋 愛結
高橋 杏乃
舘脇 麦穂
田中 梛和斗
友山 千夏
中島 実佑
永添 汐莉
西　暖翔
西本 有希
野一色 勇太
野々口 結愛
橋本 恵都
畠山 幸羽
幡野 佑衣
幡野 凌大
林　歩睦
平井 海陽
平松 結衣
廣瀬 結衣
福間 優子
藤岡 樹生
藤木　怜
布施 希実
前川 明音
前川 結以
牧山 七優
松原 篤史
松原 大河
丸山 悠衣
武藤 帆南
八木 奏帆
矢澤 伸樹
山口 快晟
山口 夏穂
山崎 丈斗
山本 滉
山本 麗菜
弓削 瑛太
弓削 なつ美
湯田 遥斗
湯田 琉斗
吉田 風香
吉原 嵩人
米倉 大晴
米倉 陽菜
渡辺 凪彩

ソプラノ
相澤 祐子
赤羽 ゆかり
阿部 一代
阿部 千里
阿部 洋恵
阿部 よし子
雨宮 孝子
新井 真樹子
安西 紀子
飯塚 純子
池田 佳代子
池田 友紀
石井 久美子
石川 明美
石川 美里
石田 良子
石田 留美
石渡 南美
磯部 佳美
井出 春香
伊藤 加奈恵
伊藤 理恵
稲勝 真紀
岩野　恵
岩本 美好
上原 三花子
浮嶋 智子
宇野 麻里恵
馬田 花菜子
梅澤 友美
榎本 美津子
江原 真樹
大川 真弓
大島 胡桃
近江屋 希
岡本　薫
岡本 直美
小田橋 香織
落合 里江
影澤 華奈子
梶山 如子
川口 良子
河村 麻来
川元 奈菜
菅 由美子
神尾 和恵
北森 菜穂
久保 由美子
黒滝 めぐみ
小林 智子
小林 靖子
薦田 美智子
斉藤 紀子
榊枝 幸子
阪口 めぐみ
桜木 結香
佐藤　彩
佐藤 麻衣
佐藤 理紗
塩田 恵子
柴田　愛
芝本　葵
白石 敦子
新　陽子
鈴木 正美
鈴木 優
鈴木 香乃
洲濱 良子
瀬沼 真知子
先崎 恭子
高橋 彩巳
髙橋 浩子
高橋 麻耶
髙山 いづみ
田川 明莉
田崎 あきさ
立山 真貴
舘脇 眞美
田中 紘子
田中 るい
田村 麻美
津田 裕希子
鶴田 貴子
長窪 幸子
中澤 彩
中島 佐知子
中島 真由美
中谷 香穂
中野 久恵
中原 有子
並木 純子
西本 幸絵
野一色 三葉
野島 淳子
野々口 有香
畠山 房子
濱村 華枝
林　七重
樋口 まゆみ
平松 恵美
前川 亜紀子
牧山 恵美
増田 みゆき
松田 多絵
松長 恵美
松原 容子
三浦 佳奈
三橋 美奈子
村上 里花
村田 千明
山口 志緒
山本　彩
山本　妃
弓削 美奈
湯田 麻美
吉田 千鶴
吉原 奈々
利元 友理加
渡邊 千恵子
渡邊 美賀
渡辺 みゆき
渡辺 友香

アルト
青木 亜希子
石井 友理
石田 佳子
石原 亜津沙
井出 渚
井上 紅果
井上 絵里子
宇津味 祐美子
大島 啓子
加藤 奈穂子
仮屋 伸子
川原 亜美可
河原 玲子
清宮 圭子
熊田 美鈴
桒野 優美子
小澤 典子
小林 茂美
小林 仁美
小林 茉央
齋藤 愛子
斉藤 麻有子
佐藤 純子
渋沢 美智子
島田 美香代
杉村 佳澄
鈴木 ゆめ子
首藤 祐己
高山 詩織
立川 明日美
田中 加寿美
土田 莉菜
寺田 久子
永井 佳織
永井 順子
中澤 恵理
名倉 美紀
西　奈緒子
西川 友梨子
野坂 あゆ美
林　奈未
樋口　悠
深井 由紀
藤岡 実里
藤木　晶
二神 結衣
眞下 知子
松崎 実和
松原 佳代
松本 理子
馬橋 昌代
丸山 直子
武藤 宏江
村上 礼衣
矢澤　圭
山崎 亜紀子
山田 あき
山本 純子
横田 和香
米倉 辛恵
和田 みずき

テノール
青木 善昭
雨宮 秀行
石井 浩太郎
石田 正晴
稲勝 路人
稲葉 拓哉
上野 慎太郎
宇津味 勇太
江原 智史
大川 健太郎
大瀬戸 啓
金岡 昂志
久保 光博
河野　勲
小甲 裕貴
小堀 義人
小堀 浩一
酒井 茂樹
宍戸 秀彰
島田 光博
新　文裕
鈴木 求紀
高橋 朋憲
高橋 祐二
高柳 裕太
田中 敏治
中澤 真佐人
中島　誠
中野 孝惟
野々口 晃典
濱村 佳樹
林　望
原 雄二郎
平井 博昭
福添 右佑
本間 正貢
山口 直泰
弓削 雄一
吉田 寛明
米原 英佑

バス
阿部 泰博
新井 宗穂
浮嶋 武士
大髙 昭紘
川原 孝則
河村 一孝
神尾　淳
齋藤 憲弥
林　正博
松崎 治幸
村松 直人
矢澤 秀毅
山﨑 晃司
山崎　仁
米倉 慎一郎
米山 潤

動物園園長（バリトン・ソロ）
鈴鹿 豊明

サーカス団 団長
松崎 治幸

サーカスピエロ
高橋 朋憲

サーカスパフォーマー
岩野 海緒
北森 野乃花

一輪車
生島　華
洲濱 菜月
平松 結衣
斎藤 成美
八木 奏帆
高橋 杏乃
幡野 佑衣
仮屋 伸子

語り手
洲濱 良子
中島 佐知子
山崎　仁

ピアノ
山下　恵

サックス
米原 英佑

フルート
永井 佳織
桜木 結香

トロンボーン
中澤 恵理

ホルン
石井 友理
岡本　洋

スネアドラム
梶山 剛

指揮
田辺 四郎

30周年記念のイラストも手掛けた!

あったかい
松本州平の絵本

主　　催
鳩の森愛の詩30周年記念コンサート実行委員会

後　　援
横浜市泉区　横浜市泉区社会福祉協議会　横浜市瀬谷区　横浜市瀬谷区社会福祉協議会

社会福祉法人 はとの会
鳩の森愛の詩保育園　鳩の森愛の詩あすなろ保育園　あすなろ保育園ちいさなおうち　鳩の森愛の詩瀬谷保育園
鳩の森愛の詩宮沢保育園　いずみ野小学校キッズクラブ　新橋小学校キッズクラブ
〒245-0009　神奈川県横浜市泉区新橋町812-2　TEL.045-810-3565/ FAX.045-810-3666（事務所：あすなろ保育園内）